

# 第3章 普及活動

## 1 研修・説明会

### (1) 探究学習推進担当者研修（島根県教育委員会）

令和4年2月14日 オンライン研修

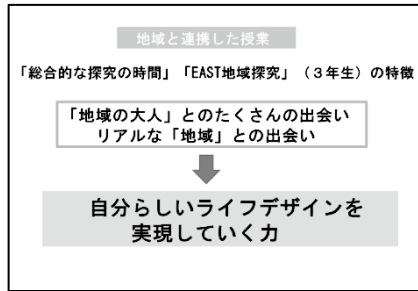
教諭 足立 樹澁「『何を通してどんな力が身についた』が見えるリフレクションシートの作成 ～東高ループリック評価表を基に～」

<p>令和3年度探究学習推進担当者研修 【探究テーマ】 <b>「何を通してどんな力が身についた」が見えるリフレクションシートの作成</b> ～東高ループリック評価表を基に～ 島根県立松江高等学校 指導者 足立 樹澁</p>	<p>第1章 課題設定の理由・背景 ①総探の評価時におけるリフレクション ②「何を通して何を得た」の重要性 ③「振り返りを書け」だけの指示では上手く書けない生徒の様子</p>	<p>第1章 課題設定の理由・背景 ①総探の評価のあり方 宇野浩吉先生「探究活動の振り返りの時間」 第109号 第2部 1「目標に達成した活動に何を得たか」の評価の観点のあり方 総合的な探究の時間の評価については、各学校が自ら設定した観点を明らかにした上で、それらの観点のうち、生徒の学習状況に顕著な事項がある場合にその特徴を記入する等、生徒にどのような資質・能力が身についたかを文章で記述することとしている。</p>
<p>第1章 課題設定の理由・背景 ②「何を通して何を学んだ」の重要性 視点① 1年生の探究の目的を高めるためのリフレクション (例) 「この時に〇〇が伸びたなあ」 ↓ 「自分はこんなことが得意なんだ」 ↓ 「この力を活かして今度は〇〇してみようかな」 これを繰り返していく</p>	<p>第1章 課題設定の理由・背景 ②「何を通して何を学んだ」の重要性 視点② 社会や大学が求める人材への(総合型選抜入試の観点) (例) 島根大学への入試 「何を通して何を学んだ」を後から思い出すのははっきり言って不可能</p>	<p>第1章 課題設定の理由・背景 ③「振り返りを書け」だけの指示では上手く書けない生徒の様子 (例) ポスターセッション後の振り返り 「何を通して何を学んだ」を後から思い出すのははっきり言って不可能 ただの感想になりがち 今回はおこなわれた、東高の23日(土)は2年生への発表です。最後まで振り返りましょう！</p>
<p>第2章 課題解決に向けた取り組み Step① どんな視点で生徒に振り返らせるのか(どんな力を身につけて欲しいのか)活動を始める前に要検討(東高ループリック評価表を基に) Step② 生徒に「振り返り」の重要性について理解させる(指導する側の教員にも) Step③ 実際に振り返りシートを作成⇒観察⇒再作成</p>	<p>Step① どんな視点で生徒に振り返らせるのか(どんな力を身につけて欲しいのか)活動を始める前に要検討(東高ループリック評価表を基に) </p>	<p>Step② 生徒に「振り返り」の重要性について理解させる(指導する側の教員にも) ○生徒への理解 ・「何を通して何を学んだ」の重要性や探究活動の質の向上について何度も説明する。(外発的) ・実際の入試問題を見せる。(外発的) ・実際に過去の自分の振り返りを後から見させる。(内発的)</p>
<p>Step② 生徒に「振り返り」の重要性について理解させる(指導する側の教員にも) ○教員への理解 ・「何を通して何を学んだ」の重要性や探究活動の質の向上について何度も説明する。(外発的) ・実際の入試問題を見せる。(外発的) ・実際に過去の自分の振り返りを後から見させる。(内発的)</p>	<p>1回目の成果と課題 成果 ・「どんな場面で何を学んだ」が見える振り返りが増えた。 課題 ・「場面」が最終活動にとどまっている。 ・途中の活動で「伸びた」「得た」という実感が湧いていない。 ⇒活動時の「伸びた」を実感させる評価言が必要 リフレクションシートにも仕掛けが必要</p>	<p>2回目の成果 成果 ・「何を通して」が具体化した。かつ途中段階での振り返りも増 ・「身についたもの」の重要性や気づきも言語化できている。 ・「何を通してどんな力が身についた」を可視化するワークシートの基礎は確立された。</p>
<p>第3章 新たな課題・ハードル ●「〇〇しているときに△△という力がついた」ということに生徒は自分で気づくことができない、また言語化できない。(振り返り・評価言の必要性) ●「何を通してどんな力を身につけたいのか」を各回振り返ることができるかどうか。</p>	<p>第4章 ハードルを乗り越えるために必要なこと ●生徒が「得た・伸びた」を実感できるような「仕掛け・評価言・機会」を教員が作る ●各回、「生徒に身につけて欲しい力」を提示⇒振り返り の流れを確立する。</p>	<p>1年間を通した学び① ● 振り返りをするときに「場面」を先に思い出させると「何を通してどんな力が身についた」が出てきやすいことが分かった。 (得た・学んだ瞬間はある。)</p>
<p>1年間を通した学び② ● 生徒が自分で「今この力が伸びたな」に気づくことができるよう、「どの活動で生徒にどんな力を身につけて欲しいのか」明らかにすることが必要である。 ↑「ループリック評価表」はとも役に立つ。</p>	<p>ループリック評価表を軸に、年度初めに全活動の計画を作ることが理想的である。(計画性が大事) ですが、 生徒の様子によって進捗は変わる。 みなさんどうしてますか？</p>	

(2) 島根県議会文教厚生委員会調査（島根県）

令和3年11月9日

主幹教諭 佐々木玲子「地域共創人育成 Project の取組について」



「総合的な探究の時間」、  
学校設定科目「EAST地域探究」のカリキュラム検討・実施

1年生 (全員対象)	～「なぜ」「どうして」という学びのタネをもつ～ 地域に関心を持つ。 地域の価値を知る。
2年生 (全員対象)	～「なぜ」「どうして」とともに地域と協働し、課題探究に挑戦する～ 地域とのつながりを探究する。 地域とともに挑戦する。
3年生 (選択授業)	～「探究」の実践～ よりよい地域を創るアクションを自ら起こす～ 地域の中から新しい価値を創造する。

「なぜ」「どうして」という学びのタネをもつ ～ 知的好奇心の喚起～

**1年生の学習内容：**「地域に関心を持つ。地域の価値を知る。」

**東高の魅力探究**  
友達と一緒に東高の魅力を発見する  
探究の基礎となる信頼性  
「探究サイクル」を理解  
プレゼンテーションスキル

**学問の魅力探究**  
島根大学や島根県立大学にご協力いただきながら  
「学問の魅力」「大学の魅力」にふれる

**地域の魅力探究**  
松江市の魅力や課題を知り、よりよい地域づくり  
について考えを深める  
ライフデザインを育める力  
地域の大学の魅力を理解  
情報活用

「なぜ」「どうして」とともに地域と協働し、課題探究に挑戦する。

**2年生の学習内容：**地域とのつながりを探究する。地域とともに挑戦する。

**地域の企業・団体等の魅力探究**  
地域の企業・団体等と協働しながら  
「企業の魅力」や「社会の課題」を  
探究する  
「探究サイクル」の実践  
⇒ 課題研究に必要な力の  
向上  
・ライフデザインをより深く  
考える力

**「MATSUE探究」成果発表会**  
地域の方々に学びの成果を発表する  
自分の考えや意見を他者  
に発信する・伝える力  
⇒ 将来の「アクション」に  
つなげる

**ライフデザイン探究**  
これまでの学びを振り返り、自分のこれからの生き方・  
あり方を探究する



これらの学びを経て・・・

**3年生の学習内容**

**「探究」の実践**  
～よりよい地域を創るアクションを自ら起こす～  
地域の中から新しい価値を創造する。

～地域の中から新しい価値を創造する。～

**3年生の学習内容**

探究テーマ	「今だからこそライフデザインへ！ 授業で地域を元気に」
1	「朝の食習慣をよめるために」
2	「小・中学校の読書習慣を改善する」
3	「地域の実習生の個性化」
4	「空き家をもっと活用するスペースに！！」
5	「中学生の探究活動 オフカマル」
6	「不登校児童の支援も知ろう」
7	「松江市の19歳・19歳の投票率を上げるために」
8	「これだから松江はいい」を 「これだから松江はいい」にするには 「知らないつながりから生まれる新たなつながり」
9	「農業種をつなげ地域に「生きがい」を創る」

～地域の中から新しい価値を創造する。～

**校外・放課後の活動**

松江商工会議所・伴走者で  
ある島根大学、島根県立  
大学等の学生と協働し、「地  
域を笑顔にする」プロジェ  
クトに取り組む。

**キラ星共創プロジェクト**  
(10組参加)

**<その他>**

★犬・猫の殺処分を  
なくす取り組み

★「医療におけるグロー  
カルな街づくり」

**校外・放課後の活動**

**朝の川フラワープロジェクト**

**川津児童クラブボランティア** (のべ29名参加)

**「地域と協働した授業」の成果**

- (1) 授業の中で「様々な大人」と出会う機会の創出  
→ 生徒の主体的な地域・社会とのつながり
- (2) 子どもたちの学びを支援する地域の体制の充実  
→ 地域の子どもの学びをともに  
支援する体制
- (3) 自分らしいライフデザインを実現する力の育成  
→ 自らの生き方・あり方を模索しながら、  
地域にアクションを起こしていこうとする力

「本校の高大連携の取組について」

島根大学（・島根県立大学）との連携状況について

- ①「地域と連携した学び」にかかる  
カリキュラム開発への指導・助言
- ②生徒に「学びのタネ」を持たせるための  
プログラムへの協力
- ③「地域共創人」を育てていく  
「人材育成」の仕組みの構築

①「地域と連携した学び」にかかる  
カリキュラム開発への指導・助言

- ・「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」  
(文部科学省事業)
- ・「教育魅力化人づくり事業」(島根県教委事業)

文科事業指定から3年目を迎え・・・  
**島根大学の先生方による支援**

- ・「地域と連携した学び」のプログラム開発
- ・プログラムを動かす教職員の組織づくり
- ・「総合的な探究の時間」の授業改善

↓

生徒も教職員も「日常的な関わり」を持てる関係性

<p>大学の先生方との「日常的な関わり」がある環境</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 生徒が進学先を選ぶ動機</li> <li>→ 卒業生の「ふるさととのつながり」意識</li> <li>→ 教職員が「専門的な知見」に触れることができる機会の増加</li> <li>→ ともに「教育」を担う立場として…これからのような人材を育てていくか、という「思い」の共有</li> </ul>	<p>②生徒の「学びのタネ」を持たせるためのプログラムに対する支援</p> <p>大学ジャーニー、Web大学訪問等の取り組み(島根大学)</p> 	<p>※今年度より 島根県立大学との交流事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 教授陣によるパネルトーク</li> <li>→ 東高OB/OGを含む県大の学生との交流会</li> </ul> 
<p>さらに高校での「学びのタネ」を大学での学びにつなげる視点</p> <p>「選挙権を得たけど、私、候補者も知らないし、それぞれの政策もよくわからない。」</p> <p>字面だけで発表</p> <p>?投票率の低さって若者(だけ)の問題なの?</p> <p>↓</p> <p>「若い有権者の投票意識が向上する社会環境の構築の研究」</p>	<p>「バスの時刻表と路線図で行きたいところに行けなかった…」</p> <p>プロジェクトに挑戦</p> <p>スマートフォンを持たない人や、地元になじみのない人、交通弱者の人たちにも使いやすい時刻表・路線図づくり</p> <p>↓</p> <p>「公共交通機関のシームレス化による住みよい街づくりのための考察」</p> <p>「高大接続」の視点</p> <p>→大学の研究室と生徒の学びを接続</p>	<p>③「地域共創人」を育てていく「人材育成」の仕組みの構築</p> <p>今年度の「キラ星共創プロジェクト」</p>  <p>現実の社会 ↔ 生徒の「やりたい」</p> <p>伴走者: 島根大学・島根県立大学等の10人の学生たち</p>
<p>「地域共創人」の育ちの場</p> <p>「実は一番鍛えられているのは、大学生なのかもしれませんね」</p> <p>(「キラ星共創プロジェクト」の中で)</p>  <p>さらに…次世代の「地域共創人」を育てる教育の場となりつつあります。</p>		

## 2 総合的な探究の時間「MATSUE 探究 I、II」の公開

### 学校設定科目「EAST地域探究」の公開

- (1) 1年生 総合的な探究の時間「MATSUE 探究」の公開  
令和3年3月10日 探究成果発表会(会場:松江東高等学校)  
教育関係者、関係企業等に公開
- (2) 2年生 総合的な探究の時間「MATSUE 探究」の公開  
令和3年12月9日 探究成果発表会(会場:くにびきメッセ)  
教育関係者、関係企業等、保護者に公開



- (3) 3年生 学校設定科目「EAST 地域探究」の公開  
令和3年 7月27日 オープンハイスクール(会場:松江東高等学校)  
7月29日 山陰探究フェスタ(会場:島根県民会館)

- (4) 「地域と協働した探究活動」の成果発表
- ・令和3年11月14日 「キラ星共創プロジェクト」成果発表会
  - ・令和3年11月16日 「しまね大交流会」オンライン発表会
  - ・令和4年2月4日 「しまね探究フェスタ」オンライン発表会

### 3 その他広報活動

- (1) 学校訪問 令和3年11月12日 埼玉県立大宮高等学校  
 令和3年11月25日 宮崎県立高鍋高等学校  
 令和3年12月13日 佐賀県教育委員会
- (2) ホームページにおいて魅力化事業の成果を普及（更新回数 35回）
- (3) 広報誌「EAST NEWS」（年5回発行）
- (4) パンフレット及び成果報告書の印刷・配布
- (5) 学校PR動画の作成（HPにて公開）
- (6) 活動が紹介された雑誌等
- ・立命館大学稲森経営哲学研究センター 教育実践研究誌「RITA」VOL.15
  - ・松江商工会議所 所報「Start Up」2022.1月号
  - ・「山陰経済ウィークリー」2022新春号



- ・山陰中央新報に記事掲載（計6回）
- ・令和4年1月3日 FM山陰にプロジェクト実施の生徒出演

## 第4章 研究開発の効果とその評価及び事業終了後を見据えた取組

### 1 目標の進捗状況、成果、評価

#### (1) 研究開発の成果目標、活動指標

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）					
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(2021年度)
(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標) 3年次に、「自分の住んでいる地域や島根県で起こっている問題や出来事に関心がある」と答える生徒の割合。					単位：%
a	本事業対象生徒：	-	73.1	73.5	70.0
	本事業対象生徒以外：	58.4	77.9	-	-
目標設定の考え方：島根県教育委員会、三菱UFJRC&Cが実施する「高校魅力化アンケート」において、学校全体で70%以上を目指す。2019年度「対象生徒以外」は3年生のみ					
(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標) 3年次に、「自分の住んでいる地域や島根県をよくするために何をすべきか考えることがある」と答える生徒の割合。					単位：%
b	本事業対象生徒：	-	59.4	73.5	60.0
	本事業対象生徒以外：	35.7	69.2	-	-
目標設定の考え方：島根県教育委員会、三菱UFJRC&Cが実施する「高校魅力化アンケート」において、学校全体で60%以上を目指す。2019年度「対象生徒以外」は3年生のみ					
(高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標) 3年次に、「将来、島根県で働きたいと思う」と答える生徒の割合。					単位：%
c	本事業対象生徒：	-	58.4	62.9	55.0
	本事業対象生徒以外：	50.5	69.7	-	-
目標設定の考え方：島根県教育委員会、三菱UFJRC&Cが実施する「高校魅力化アンケート」において、学校全体で55%以上を目指す。2019年度「対象生徒以外」は3年生のみ					
(その他本構想における取組の達成目標) 松江東高等学校を高大連携のパイロットモデル校に指定している島根大学への志願者数					単位：%
d	本事業対象生徒：	-	41.7	42.2	50.0
	本事業対象生徒以外：	48	50.0	-	-
目標設定の考え方：3年次第1回進路希望調査で、第3希望までに島根大学を記入した生徒の割合。毎年50%以上を目指す。					

・2019年度3年生は、特に県内志向が高い学年であった。この学年を除くと、全ての目標において、肯定的な回答をした生徒が増加した。総合的な探究の時間を始めとした本事業の取組が生徒の「地域共創」への意欲や態度を育てることができた結果であると考えられる。特に目標aやbおよびcに関する回答は、非常に高い評価であった。

・目標dに関しては年ごとに微増しているが、目標値を達成することができなかった。生徒への聞き取り調査では、「一度外部から島根県を見たい」や「総合的な探究の時間で協働した企業の方からも、一度は県外で生活する経験をするのを推奨された」など、前向きな意味合いで自分のライフデザインを考えている結果だと考察できる。また、島根大学の説明会などは本校を会場に複数回開催しているが、生徒自身が大学の学びを実体験する機会がなかなか確保できなかったことも原因のひとつであると考えられる。今後は、生徒が大学でどのような生活や研究を行うのかを実感できるような機会の確保も含めて、高大連携プログラムを検討していく必要がある。

2. 地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）					
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(2021年度)
a	(地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) 県内外の教育機関等に公開する授業研究等の回数				単位：回
	0	7	2	7	7
目標設定の考え方：毎年7回以上を目指す。					
b	(普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) 県内外の教育機関等に取り組みを紹介するための研究発表会の回数				単位：回
	0	3	2	3	3
目標設定の考え方：年3回を目指す。今年度は学年全体の発表会のほか、独自のプロジェクトに参加した生徒の探究活動の成果の発表会も実施した。					
c	(普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) 県内外の教育機関等に取り組みを紹介するために学校のホームページを更新する回数				単位：回
	0	40	67	35	35
目標設定の考え方：毎週1回以上の更新を目指す。					

3. 地域人材を育成する地域としての活動指標（アウトプット）					
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(2021年度)
a	(地域人材を育成する地域としての活動の推進状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) 「研究開発ワーキンググループ」のミーティング等の活動回数(カリキュラムの検討や成果報告)				単位：回
	0	31	22	24	24
目標設定の考え方：毎年10回以上を目指す 戦略WG、教育プログラムWG、総探カリキュラムミーティングの合計回数。					

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

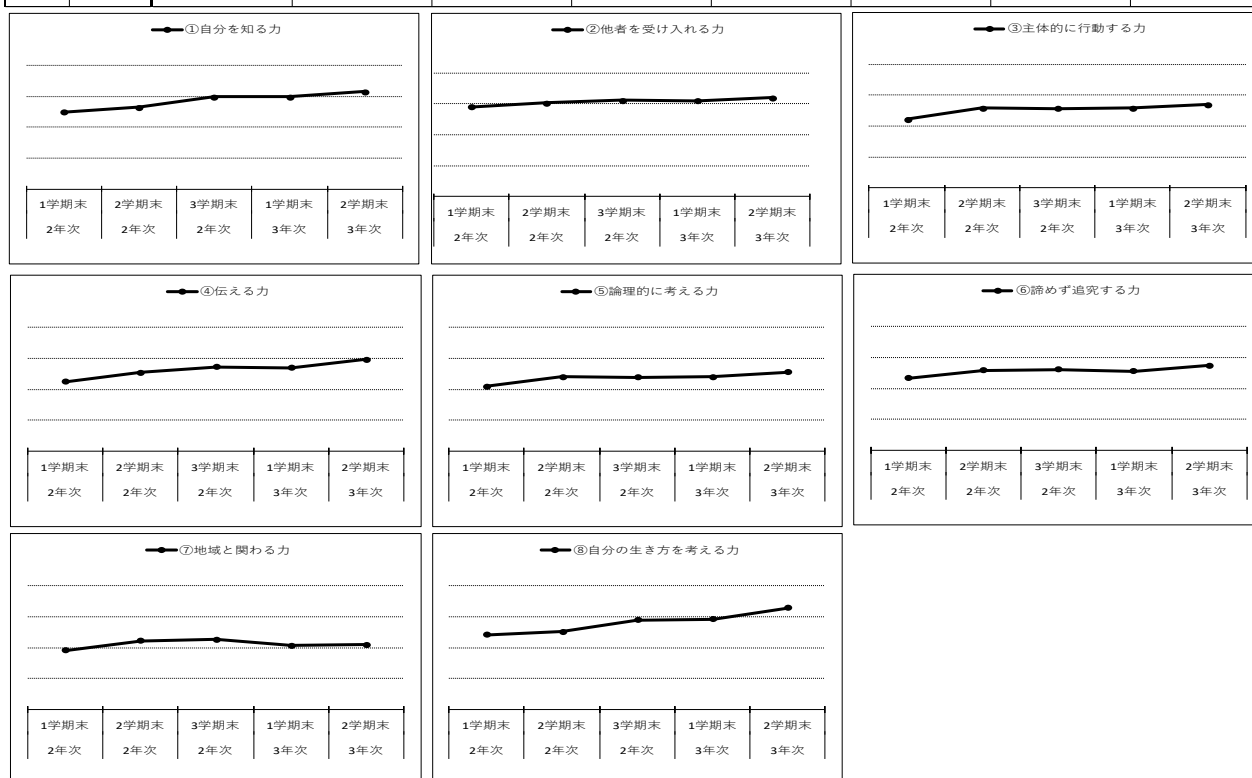
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
全校生徒数(人)	678	670	629	607	550
本事業対象生徒数			409	607	550
本事業対象外生徒数			220	0	0

## (2)キャリア・パスポートによる評価（生徒による自己評価）

児童生徒がキャリア教育に関わる諸活動と各教科等を往還し、自らの学習状況やキャリア形成を振り返ったり将来を見通したりしながら、児童生徒自身の変容や成長を自己評価していくことができる教材（キャリア・パスポート）を活用し、「東高生に付けたい力」ルーブリックに基づいた生徒による自己評価を行った。

### ア 3年生（37期生）

2022/2/12 現在		37 期生			東高で付けたい力自己評価				
		①自分を知る力	②他者を受け入れる力	③主体的に行動する力	④伝える力	⑤論理的に考える力	⑥諦めず追究する力	⑦地域と関わる力	⑧自分の生き方を考える力
2年次	1学期末	2.49	2.91	2.22	2.25	2.09	2.33	1.92	2.42
2年次	2学期末	2.64	3.04	2.58	2.55	2.40	2.58	2.23	2.51
2年次	3学期末	2.99	3.12	2.57	2.73	2.39	2.61	2.25	2.90
3年次	1学期末	2.98	3.10	2.58	2.69	2.41	2.55	2.06	2.92
3年次	2学期末	3.15	3.20	2.70	2.97	2.56	2.74	2.09	3.28

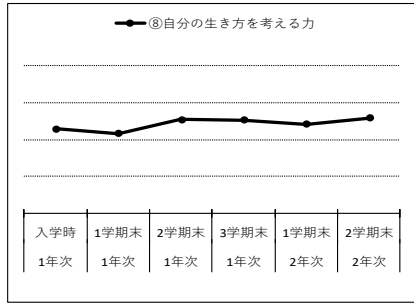
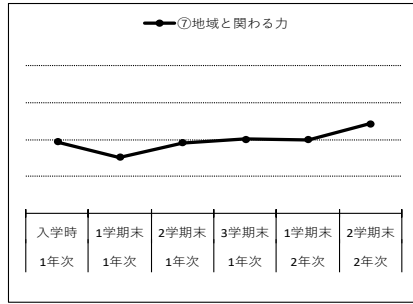
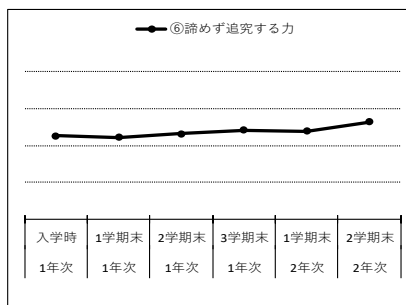
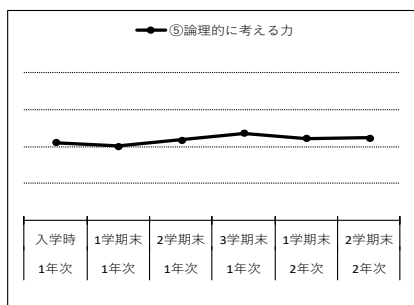
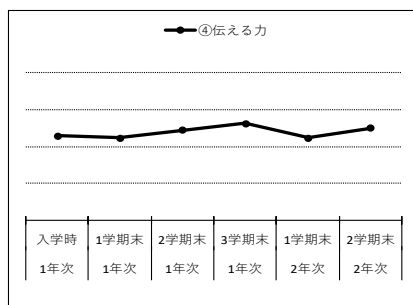
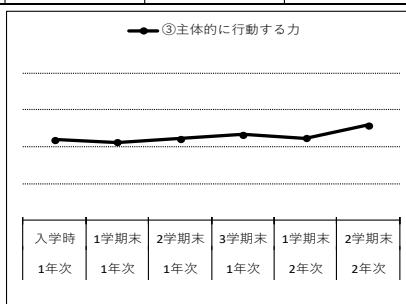
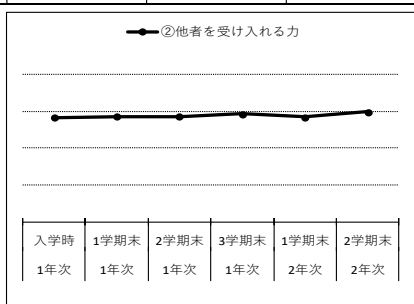
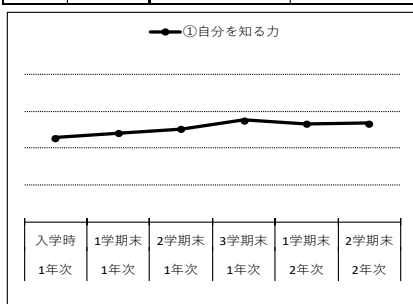


37期生は2年次の1学期末から3年次の2学期末にかけて、合計5回実施した。

全体的な傾向として、どの項目も調査開始時の得点から上昇している。中でも「①自分を知る力」や「⑧自分の生き方を考える力」の伸び率が大きい。この結果は、本校の諸活動が生徒の「メタ認知」や「キャリアプランニング」に対する意識を高めたことに繋がっていると見て取れる。その反面、「⑦地域と関わる力」については2年次からポイントが下がっている。これは、ほとんどの生徒は総合的な探究の授業を通して地域と関わるが、3年生になると進学準備に入り、授業においても地域と関わる場面が減少することが原因だと考えられる。

## イ 2年生(38期生)

2022/2/12 現在		38 期生			東高で付けたい力自己評価				
		①自分を知る力	②他者を受け入れる力	③主体的に行動する力	④伝える力	⑤論理的に考える力	⑥諦めず追究する力	⑦地域と関わる力	⑧自分の生き方を考える力
1年次	入学時	2.28	2.83	2.19	2.30	2.12	2.26	1.94	2.29
1年次	1学期末	2.40	2.85	2.12	2.24	2.01	2.22	1.52	2.16
1年次	2学期末	2.52	2.85	2.22	2.45	2.18	2.32	1.91	2.54
1年次	3学期末	2.76	2.92	2.33	2.63	2.36	2.41	2.01	2.53
2年次	1学期末	2.65	2.83	2.23	2.24	2.22	2.38	2.00	2.42
2年次	2学期末	2.68	2.98	2.58	2.50	2.24	2.64	2.43	2.58



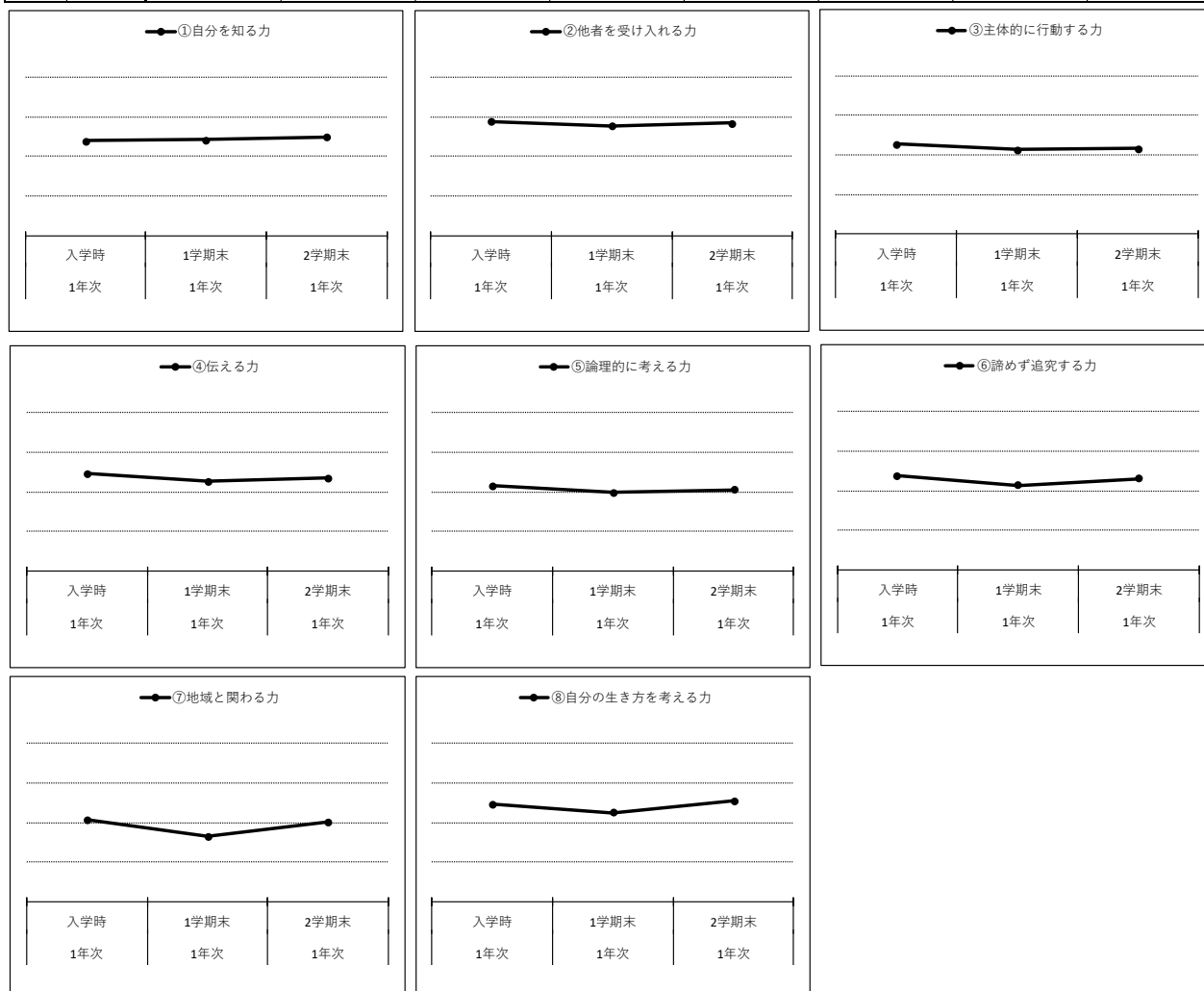
38期生は1年次の入学時から2年次の2学期末にかけて、合計6回実施した。

ほとんどの項目において、入学時から特徴的な変化を見ることができない。これは、彼らが2年生に進級してからもコロナウイルス感染防止対策下の生活を強いられていることが強く影響していると考えられる。そんな中でもグループでの活動や、学校外部と関わりを持つ活動を行った後の調査では、「①自分を知る力」や「③主体的に行動する力」、「⑥諦めずに追究する力」などで高い得点が出ている。また、2年次2学期末の調査では「⑦地域と関わる力」も伸びてきた。3学期はいよいよ本格的に自身のキャリアプランを見つめることになる。この後の「⑧自分の生き方を考える力」の得点の推移に注目したい。



ウ 1年生（39期生）

2022/2/12 現在		39 期生			東高で付きたい力自己評価				
		①自分を知る力	②他者を受け入れる力	③主体的に行動する力	④伝える力	⑤論理的に考える力	⑥諦めず追求する力	⑦地域と関わる力	⑧自分の生き方を考える力
1年次	入学時	2.39	2.88	2.27	2.46	2.16	2.37	2.06	2.45
1年次	1学期末	2.41	2.76	2.13	2.27	1.98	2.14	1.64	2.25
1年次	2学期末	2.48	2.84	2.17	2.34	2.06	2.30	2.01	2.55



39期生は入学時から2学期末にかけて、合計3回実施した。

他学年と比較して、データが少ないのでなんとも言えないが、38期生の入学次のデータと比較すると各項目とも若干高い結果となっている。数値の動き方を比較すると、38、39期生とも入学次から1学期末では数値が下がり、2学期末にかけて再び上昇している。これは、高校入学後1学期の学校生活においてさまざまな現実と直面し、入学次の感覚的な評価から実際的な視点に立ち返った結果評価が下がり、2学期において学園祭やグループ的活動を経験する中で、多様な人間関係から今一度自分自身を客観視した結果、自分を肯定的に見ることができるようになるという変化なのかもしれない。3学期以降の変化に注目したい。

### (3) カリキュラム開発等専門家による評価

カリキュラム開発等専門家

島根大学教職大学院准教授 中村怜詞

#### ア 「総合的な探究の時間」の開発

##### ・開発プロセス

これまでの総合的な探究の時間を全面的に見直し、コンソーシアムと協働して新たなプログラムを開発した。開発のプロセスも①学校とコンソーシアムで教育目標の共有、②地域企業と連携した課題解決学習の設計、③評価方法の開発とコンソーシアムでの共有という手順で進められ、まさに「社会に開かれた教育課程」を体現したものと言える。

##### ・プログラム

育てたい力を明確かつ具体的に設定したうえで、育てたい資質・能力を発揮することが求められるプログラムを設計した。1年時のチームビルディングや学校の魅力発見・発信メディアの創作など生徒が楽しみながらも協働性などを発揮できるようになっている。2年時に取り組むPBLでは地域の企業が抱える課題の解決に取り組み、社会人と協働的に問題解決に取り組むことが出来る学習機会が用意された。社会人がどのように身近な課題に取り組み解決に向けて取り組んでいるのかを学ぶ機会となるだけでなく、生徒たちにとってキャリア形成のロールモデルと出会えるチャンスともなっている。コンソーシアムと協働することで、1学年200人の生徒に対して30～40の企業に協力してもらうことが出来ている。PBLでは手触り感のあるリアルな課題に取り組めたり、自分にとってつながりがあると感じられる課題に取り組むことで学習者の意欲や生み出される成果が高められる。1チーム(5人前後)に1企業が充てられる贅沢な環境の実現により、生徒たちは企業の課題に直に関わることが出来るチャンスを得るとともに、企業の担当者とも豊かなコミュニケーションをとることが保証されている。実際に課題に取り組んでいる当事者と協働することは生徒たち自身の課題に対する当事者意識を高めるという研究もあり(樋田有一郎(2015)「高校生の当事者性を育てる一地域型授業のモデル化をめぐる一」青少年問題研究会『青少年問題』第660号、42-47)、生徒たちの社会に関わろうという意欲を触発したものと考えられる。

##### ・評価ルーブリックの開発

開発した探究的な学習プログラムが生徒たちの資質・能力の向上にどれほど寄与したのかを測り、生徒たちの到達状況に応じてフィードバックを与えたり、生徒自身が到達度を客観的に認識するためにルーブリックを開発した。

#### イ コンソーシアム運営

これまで教育魅力化には島根県内の離島中山間地域の学校が取り組んできた。隠岐島前高校や津和野高校などが有名であるが、これらの学校は学校の統廃合など危機も抱えており、学校と地域が連携することで教育活動を磨き上げていく必要性に迫られていたが、県庁所在地にある松江東高校のような普通科進学校が取り組んだ事例はこれまでなかった。まさに前例のないなかでの挑戦であり、学校と地域の距離も遠い中でのコンソーシアムづくりを実現させたことは、今後都市部でコミュニティスクールやコンソーシアムを導入する学校や地域にとって大きな参考になる。コンソーシアムは卒業生会やPTAなどの学校に関わるステークホルダーだけでなく、市役所や中小企業同友会など松江東高校が実現させたい探究学習をかなえるために必要な関係者を巻き込んで立ち上げることが出来た。コンソーシアムやコミュニティスクールは立ち上げても、年に数回の学校運営協議会を実施するだけにとどまってしまい、動かない組織もままあるが、松江東高校は複数のワーキングチームを作り、機動的

に動けるように組織体制を整理している。実際に学習プログラム（総探）を検討するワーキングチームでは中小企業家同友会と連携して探究学習に関わる企業を多数集めることが出来、実現したいカリキュラムを協働的に実現させていくことが出来た。

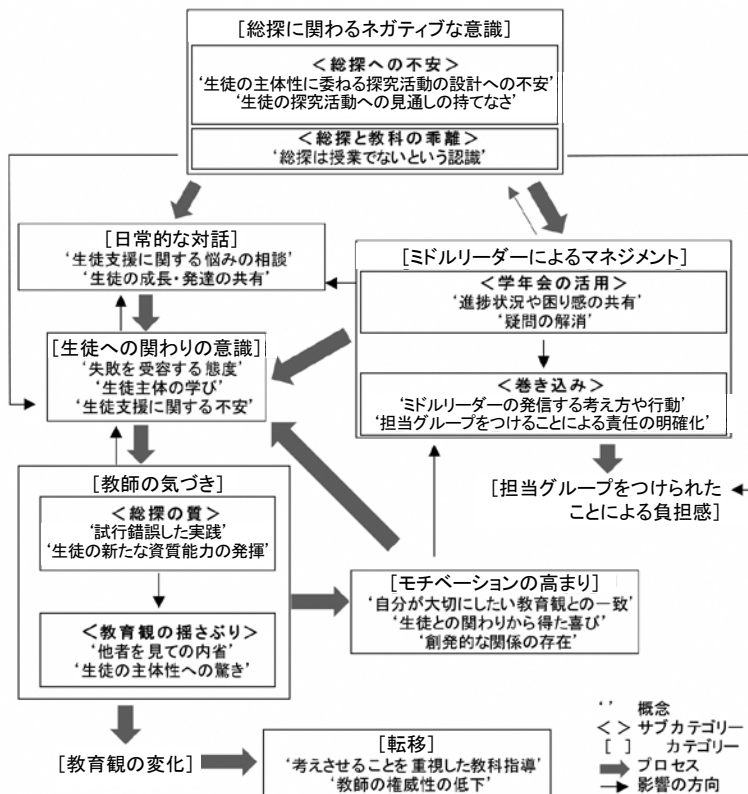
## ウ 教員組織改革

総合的な探究の時間を担う担当分掌の設置と各学年における責任者が明確化された。多くの学校では学年団ごとに異なる教育が実践されるなど一気通貫した取り組みにならない事例も散見されるが、松江東高校においては学年団ごとに担当者を置きつつも、文章の中で三年間のプログラムをどうつなげていくのかという視点が共有されており、教育目標に合致した学習プログラムが計画的、体系的に取り組まれている。

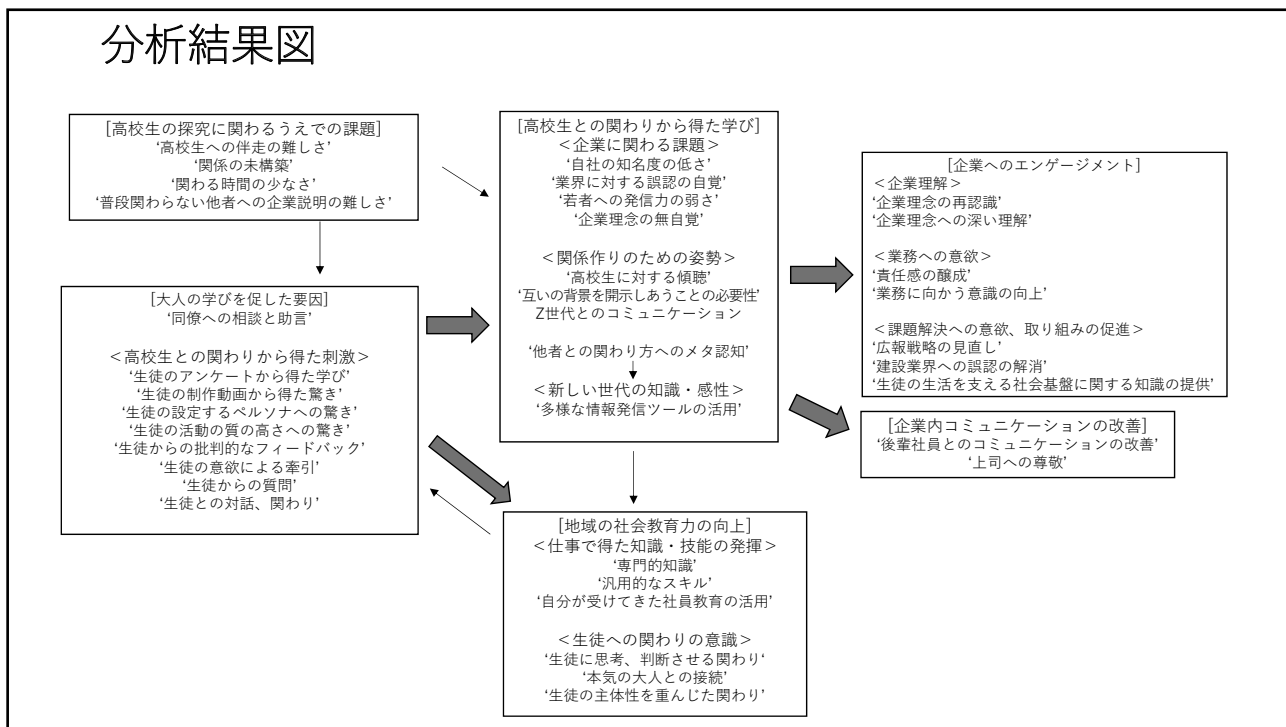
当初は総合的な探究の時間に対して当事者意識の低い教員も複数見られたが、各教員の総合的な探究の時間に対する意欲と当事者意識が向上した。昨年度2年学年部に対して実施した調査によると（図1）、総合的な探究の時間のプログラムを企業と連携したものに大きく作り変える中で、新たな取り組みに対して不安や疑問を持つ教員が13人中10人いた。しかし、学年会を起点としたマネジメントを行い、先生方の不安や悩みの吸い上げとミドルリーダーによる方針の明示を丁寧に繰り返すことで学年団としてのまとまりが形成されていった。また、生徒主体の学びを学年団の方針として共有したことで、普段の授業とは異なるかかわりが生徒との間で行われ、生徒との関係性が好転したり、普段の授業では発揮されない生徒の資質を目の当たりにしたりすることで、教育観が揺さぶられたという教員も複数あらわれた。

## エ 生徒への影響

総合的な探究の時間にチームで協働して取り組む設計としたことで対話的、協働的な学びに取り組むことが出来るようになった。その影響は他教科の授業にも表れており、対話的な学びに違和感なく取り組むことが出来るようになった。



図① 教師の意識変容



図② 関わる大人にとっての学び

## 2 教職員の資質向上

### (1) 授業改善のための公開授業・研修

#### ア 公開授業週間の実施

「主体的・対話的で深い学び」にかかる研究では新型コロナウイルス感染症の影響により先進校視察等は行えなかった。年に2回（6月、11月）公開授業週間を設け、全教員が2回以上他の教員の授業参観を行い、以下の7つの視点で授業観察を行った。授業への感想やアドバイス等を授業参観記録に記入して提出することで共有を行っている。

【7つの視点】

- ①安心感もてる授業
- ②口頭での説明（指示の出し方）の工夫
- ③板書の工夫
- ④集団を意識した取組
- ⑤自己肯定感を持たせる取組
- ⑥言語活動の充実
- ⑦考えさせる取組

#### イ 島根大学を対象としたオンライン公開授業（→P37 とおり）

### (2) 魅力化に関する教職員研修会

#### ア 「本校の生徒に育てたい力 ～松江東高ルーブリックをもとに～」研修

実施日 令和3年6月29日

内容 生徒たちの実態分析と、それを踏まえて「生徒に育てたい力とその手立てについて」をテーマに学年部ごとにワークを通して考察を行った。

## 分 析

1年生については、課題として人との関係性・協調性という部分で「人に任せてしまう」という課題、また「情報収集のスキル」が十分育っていないことがあげられた。研修の中で今後、教育活動全体を通して、「人に頼る・自立する・・・のバランス感覚の育成」や「チームの中で自分の役割を見つけ、果たす力」、「情報収集活用能力」の育成をめざすことが確認された。2年生については、「他者への関心を持ちにくい」実態が共有された。「総合的な探究の時間」を中心に「社会や他者に興味を持つ」ための思考力を伸ばすことや「他者意識をもって自分の考えを伝える」ための表現力の育成をめざすことを確認した。

### イ 「志望理由書指導力アップ研修」

実施日 令和3年8月4日

講 師 大堀 精一 さん (学研アソシエ)

内 容 「総合的な探究の授業」で行っている探究学習を、大学等の学びや社会課題につなげて思考し、アウトプットさせるための指導の方法について、講義とワークを通して理解を深めた。

### ウ 「探究的な学び」が展開される授業づくりへの挑戦～学校の文化へ～

実施日 令和3年10月26日

講 師 山藤 旅聞 さん (新渡戸文化中学校・高等学校 統括校長補佐)

内 容 地域と連携した地域課題解決型学習のみならず、教科の授業における「探究的な学び」について、「学校の文化」にしていくために学校全体でどのようにデザインしていくのかについて、全教職員で講義とワークを通して学びを深めた。また「バックキャスト」的な思考での教育全体をとらえる示唆を得た。



### 3 研究開発 I～VIの今後の課題と方向性

#### I 「地域共創人」を育成する3年間の体系的なカリキュラム研究（地域共創人育成 Project）

「総合的な探究の時間」を中心に、生徒が地域とつながる様々な機会を創出することができた。アンケート結果や運営指導委員の助言等を踏まえ、一つ一つのプログラムのねらいを教職員で共有し「見通し」と「腹落ち」感を持って指導にのぞめるよう推進体制を工夫するとともに、活動ごとの評価をより丁寧に行い、生徒の力を伸ばしていく。

#### II 文理融合型の教育を目指す2年次からの「地域共創コース」のカリキュラム研究

3年間の研究指定期間の中では、「地域共創コース」の開設にはいたらなかった。地域を学びのフィールドとして、学校設定科目や教科の授業、総合的な探究の時間をはじめとする探究学習を有機的につなげ、それをライフデザインの実現に接続させていく「地域共創コース」開設にむけて、さらなるカリキュラム研究をすすめていく。

#### III 県指定で2年間実施した教育課程実践モデル事業の継承による主体的学習者育成研究

3年間の研究開発を通して、地域の学問分野のリソースである島根大学との人的つながりを深め、今後の「組織のつながり」への展望につながった。このつながりを活かし、大学との学びの接続を意識した授業改善や、大学の教員と協働し生徒の「学びにむかう力」を高める授業づくりを進めていく。

#### IV 教育を核とした多文化協働・地域共創研究

地域へのアクションを主体的に行う生徒たちが多く出てきた。それとともに本校の「地域共創」への地域の理解が少しずつひろがり、様々な機関から本校生徒との協働を求める声をいただけるようになった。今後は本校にとどまらず、地域全体で「地域を共に創るハート」をもった人材を育成する「地域共創人育成 Project アドバンスト」を実施する。

#### V 持続可能な学校魅力化事業研究

管理機関により高大連携推進員が配置された「拠点校」として、島根大学や島根県立大学と連携しながら、大学生も含めた「地域共創」のタネを育てる「システム」の構築をめざす。それも含め「コンソーシアム組織全体で『地域共創人』を育てる」ために、既存のコンソーシアム組織の構成メンバーを再検討し、学校運営協議会組織とも関連付けながら、より実効性のある活動ができる組織にする。引き続き地域と学校をつなぐコーディネーター人材の確保等にむけて、財政面も含めてチャレンジをしていく。

#### VI 単位制普通高校移行や新学習指導要領の内容を見据えた学校の魅力化研究

3年間の研究開発を通じて地域との協働的な学びの価値についての学校全体の理解が深まった。今後、さらに地域のリアルな課題に触れながら「思考力・判断力」「学びに向かう力」を伸ばすとともに教科の学習との好循環を生み出すカリキュラム開発について、引き続き検討を進めていく。

## 【参考資料】

- 1 2年生「総合的な探究の時間」の活動振り返りシート
- 2 協力企業・団体アンケート回答結果過年度比較
- 3 魅力化に関する教職員アンケート
- 4 高校魅力化評価システムの結果  
(本校のルーブリックにあてはめ分類したもの)





(参考資料1) 2年生「総合的な探究の時間」の活動振り返りシート

( )R( ) ( )

**振り返り 1 (個人で10~15分)**

以下の質問1~33の質問について考え、当てはまるものについては数字を○で囲みなさい。ただし、そのように判断した具体的な瞬間(場面や活動)を浮かべながら振り返ること。(2学期の活動全体を通して考えてください。)

**【観点A】**

- 1 「おもしろい」「楽しいな」と思った瞬間がある。
- 2 「おもしろくない」「やりたくない」と思った瞬間がある。
- 3 自分が得意なことが分かった・見受けられた瞬間がある。
- 4 自分が苦手なことが分かった・見受けられた瞬間がある。
- 5 友達から「ありがとう」と言われた瞬間がある。

**【観点B】**

- 6 先生や企業の方の意見、指示、アドバイスなどを受け入れることができた瞬間がある。
- 7 先生や企業の方の意見、指示、アドバイスなどを受け入れることができた瞬間があまりない。
- 8 友達の意見、指示、アドバイスなどを受け入れることができた瞬間がある。
- 9 友達の意見、指示、アドバイスなどを受け入れることができた瞬間があまりない。

**【観点C】**

- 10 自分から動いた瞬間がある。
- 11 自分から動いた瞬間があまりない。
- 12 班員に指示されなくても、自分でやることを見つけようとした瞬間がある。
- 13 班員に指示されなくても、自分でやることを見つけようとした瞬間があまりない。
- 14 「なぜだろう?」「もっと知りたい」と興味をもち、自分で調べた瞬間がある。

**【観点D】**

- 15 すぐにできなくてもこだわってやり抜いた瞬間がある。
- 16 できない・分からないことがあったときに途中でやめてしまった瞬間がある。
- 17 現状に満足せず、「もっと良くしたい!」という気持ちをもって取り組んだ瞬間がある。(原稿暗記なども含む)
- 18 伸び代があるのにも関わらず、「もうこれでいいだろう」と頑張るのをやめた瞬間がある。(原稿暗記なども含む)

**【観点E】**

- 19 根拠を持って(リサーチを十分して)仮説を立てることができた。
- 20 根拠を持って(リサーチを十分して)仮説を立てることができなかった。(なんとなく仮説を立てた)
- 21 計画を立てて探究活動を行った。
- 22 計画を立てて探究活動を行うことができなかった。
- 23 仮説や結果を吟味して(結果を十分予測して)活動を実施できた。
- 24 仮説や結果を吟味して(結果を十分予測して)活動を実施できなかった。
- 25 「〇〇の場合はどうだろうか」と物事を比較して考えた瞬間がある。
- 26 批判的にものごとを考える瞬間があった。(このアンケートで仮説が本当に立証できるのか など)
- 27 批判的にものごとを考える瞬間(本当に~なのか?)はなかった。

## 【 観点 F 】

- 28 自分から意見・考えを発信した瞬間がたくさんある。(発表は除く)  
29 自分から意見・考えを発信した瞬間があまりない。(発表は除く)  
30 意見を求められた時に(質問された時に)、自分の意見・考えを発信した瞬間がある。(発表の質疑応答も含める)  
31 意見を求められても(質問されても)自分の意見・考えを伝えることができなかった。(発表の質疑応答も含める)  
32 他者の「納得がいかない、分からない」考えに対して、質問・反論した瞬間がある。  
33 他者の「納得がいかない、分からない」考えに対して、そのままにしてしまった瞬間がある。

## 振り返り 2 (ペアまたは3人くらいで5分)

1～33のうち、丸で囲った部分について「どんな瞬間(何をしている時)にそう思ったのか」友達と話し合ってみよう。聞いている方は「なんでそう思う?」「何をしたの?」などで質問攻めしてください。

## 振り返り 3 (個人で15分)

振り返り1で○をした数字を参考に、「学んだこと・身につけた力」と「改善すべき点・今後身につけたい力」を整理し、言葉で書き残しましょう。振り返り1の観点 A～F は以下の A～F の学び・力に結びつきます。記入欄は裏。

- |   |                             |
|---|-----------------------------|
| A 自分を知る(力)  | B 他者を受け入れる(力)、人と協力する(力)=協働力 |
| C 主体的に行動する(力)   | D 諦めずに追究する(力)               |
| E 論理的に考える(力)、計画性、結果を予測する(力)、検証する(力)、比較してものごとを見る(力)、批判的思考(力) | F 伝える(力)、コミュニケーション(能力)      |

※その他の学びや力ももちろん OK!

### 良くない例

『総探の探究活動を通して「論理的に考える力」がついたと思います。これからもさまざまな場面で「論理的に考えること」を意識して生活していきたいです。』



パッと見良さそうな文章だが、何も具体性がない。誰でも書くことができる。また、2週間後に自分が見ても何も思い出せない。(=次につながらない振り返り)入試などで他者が見るならなおさら何も伝わらない。

### ★ 振り返りの4つのポイント

- ① 学んだこと・身につけた力(改善すべき点・今後身につけたい力)を書く。
- ② 学んだ・力がついた(不足している)と感じた瞬間(場面や活動)を書く。
- ③ その瞬間(場面や活動)に自分が感じたことや考えたことを書く。
- ④ その力はこれからの生活のどんな場面(部活や勉強など)で役に立つと思うかを書く。(自分が進む進路や就きたい職業で役に立つ力について言えるのが1番良い。)

### 良い例

『アンケートの作成と実施を通して①「予測することの大切さ」を学びました。②私は、「〇〇の認知度を知るための現状調査」として東高生50人にアンケートを行いました。③私はアンケートを作ったことがなかったので初めは「どう作ればいいんだろう」と悩みました。しかし、答える人がどう答えるか予測しながら質問を考えると、どんな聞き方をすれば自分たちが知りたいことを調査することができるかが明確になりました。

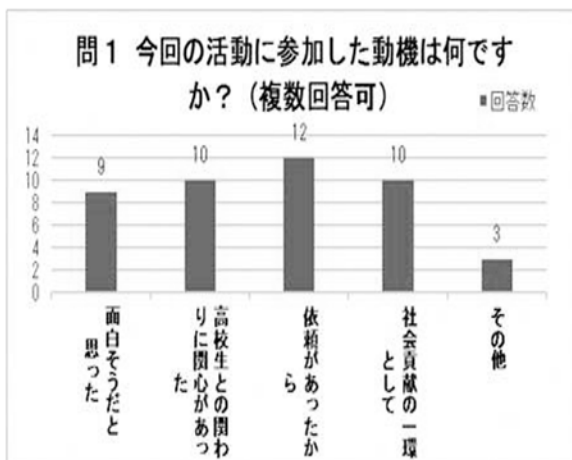
④予測する力は、日常生活の中の軽率な失敗を減らすことに役立つと思います。目先のことだけを考えて行動するのではなく、「こうなるのではないか」と行動の先にあることを予測してから行動したいです。

ポイント①～④を押さえて、できるだけ具体的に、「自分しか書くことができない振り返り」を文章として残しましょう。

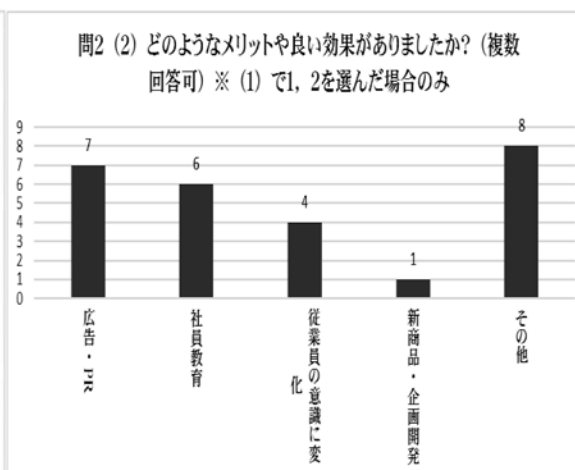
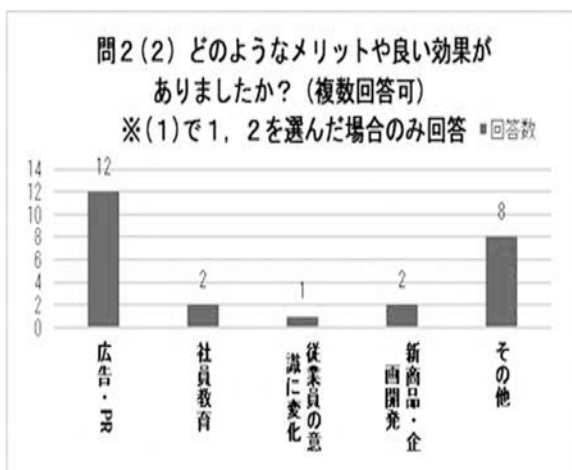
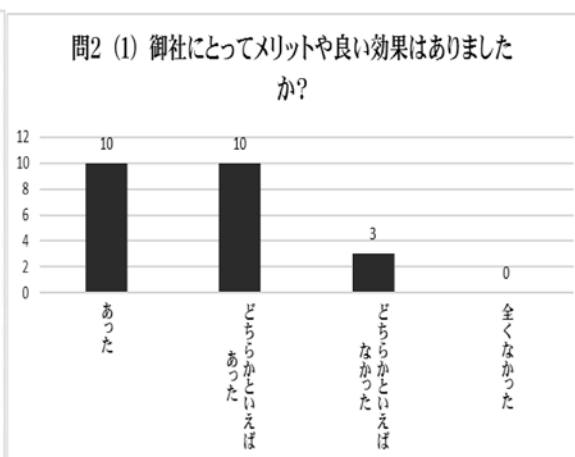
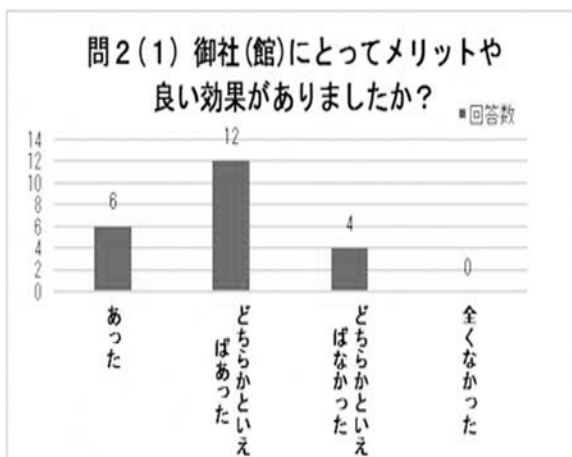
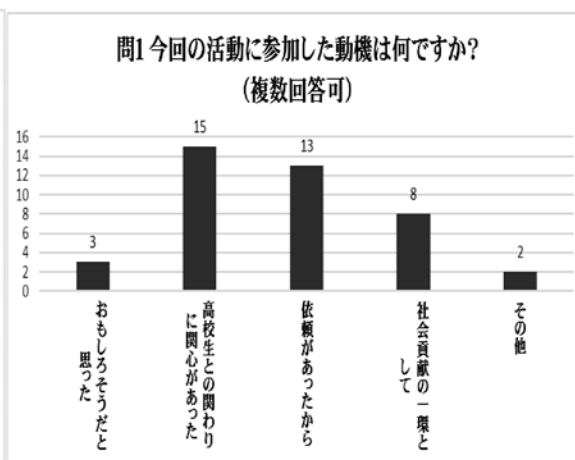
(参考資料 2)

協力企業・団体アンケート回答結果過年度比較 (R3年度解答数 22 ⇔ R4年度回答数 23)

(R3年度回答)



(R4年度回答)



※「社員教育」・「従業員の意識の変化」のポイントの上昇が見て取れる。これは、昨年度の経験から、企業側従業員の「内側の変化」に高校生との協働が望ましい効果があると経営者が判断し、それが実証された結果だと推察できる。

(R3年度回答)

【問2(2)】「どのようなメリットや良い効果がありましたか？」その他 自由記述

- ・地域とのつながりの強化、将来の新卒採用へ向けた活動 ・ 普段思いつかないアイデアもあり良かった。
- ・高校生や若い人への企業広告や採用活動につき、大いに参考となった。
- ・若い方々に、マーケティングの考え方を理解してもらった。
- ・高校生とのやりとりが新鮮だった。・若者の視点から、弊社への意見をもらえたこと
- ・慢性的に人手不足の業界のため、若い世代に感心を持ってもらえた。
- ・川津地区の出身者は元より、地区外（市内・市外含めて）の生徒さんに川津の歴史・文化・強み・弱み等々を知っていただく絶好の機会になりました。公民館側として、中高生の活動に対するスタッフやプログラム等の準備に役立ちました。高校生が求める高校所在地の魅力とは何か？を今後掘り下げていきたいと思うようになりました。

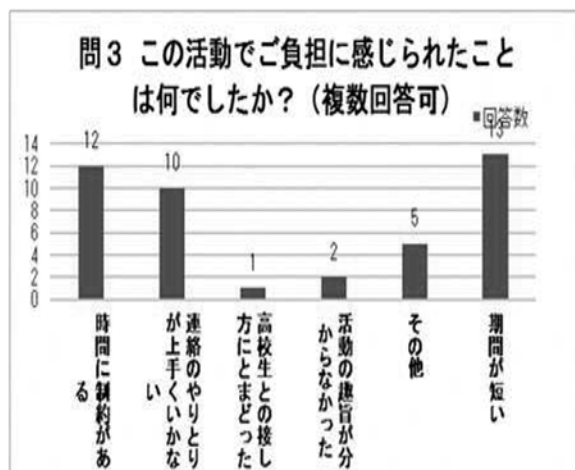
(R4年度回答)

【問2(2)】「どのようなメリットや良い効果がありましたか？」その他 自由記述

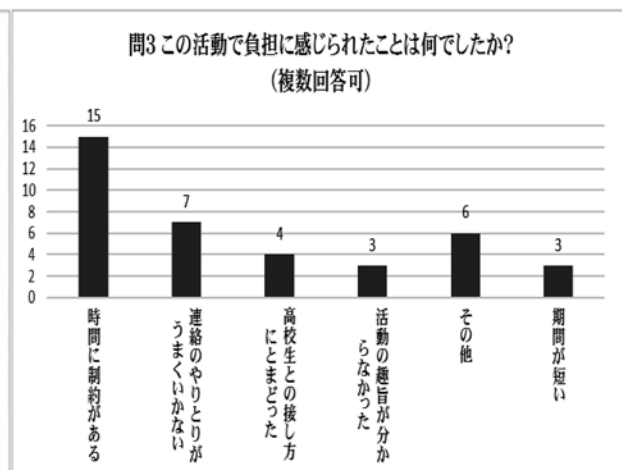
- ・自社が抱える問題解決のヒントになった。
- ・高校生の企業に対する意識が分かった。
- ・関心を持ってもらえた。
- ・新たな視点を得ることが出来た。
- ・隣にある学校として、連携が少しでも深められたこと。
- ・高校生から見た視点で新たな発見があった。
- ・探究教育の実態・高校生の取り組み姿勢を知ることが出来た。
- ・アンケート結果や若い柔軟な視点からのご意見が役に立ちました。

※この活動は企業側にとって高校生の実態や考えを知るよい機会になっていることが分かる。

(R3年度回答)



(R4年度回答)



※「高校生との接し方にとまどった」の項目が微増している。これは生徒と関わる企業側の人材が若手となり、高校生に対する遠慮などが影響したのではないかと考えられる。また、「連絡のやりとりがうまくいかない」の項目が微減している。これは、若い人材と高校生とでLINEWORKSの活用が活発に行われたことに起因していると考えられる。「期間が短い」の項目が激減しているのは、本年度はこの活動を1学期から始めることができたので、この結果となったと思われる。

### (R3年度回答)

【問3】「この活動でご負担に感じられたことは何でしたか？」その他 自由記述

- ・どこまで踏み込んだやりとりをしていいのかわかりづらかったです。
- ・当社へもっと来てもらいたかったが、生徒さんは自転車のため、往復に時間をとられ、面談時間に制約があった。
- ・アポなしで突然来館してきたこともあり、対応に苦勞しました。じっくりと相手をしてあげる時間がなく、申し訳ないと思うが、どちらにせよ何かをするには圧倒的に時間が少なすぎると思います。
- ・公民館長や職員さんで対応できない部分は、課題に応じた関係者がその担当を受けましたが、平日、仕事をしている関係で直前の依頼に対応できなかったことが悔やまれます。加えて、松江養護学校高等部の「探究」も重なり十分な支援ができませんでした。コミュニケーションアプリが使用できることを知りませんでした。本年度はコロナ禍で9月から開始になりましたが、次年度も公民館関係の探究チームがあれば、私自身の心の準備や協力者を募りたいと思っています。
- ・負担ではないが、生徒達の活動の様子が見えず、無事に進んでいるのか心配になった。
- ・楽しんでものづくりをすること。

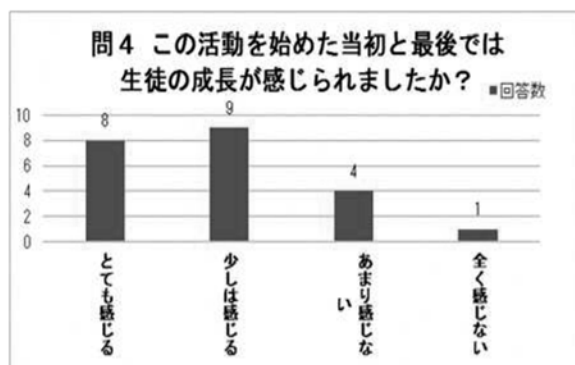
### (R4年度回答)

【問3】「この活動でご負担に感じられたことは何でしたか？」その他 自由記述

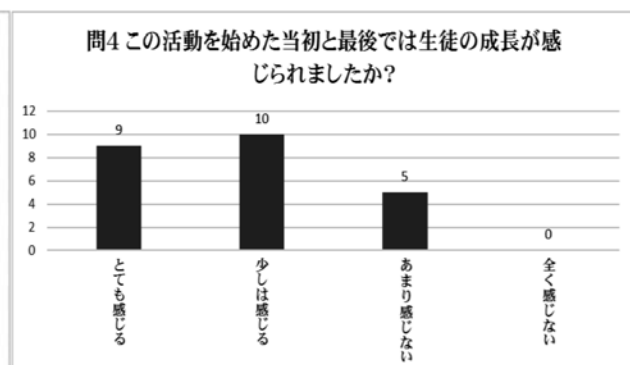
- ・事業の流れや手法をもう少し丁寧にレクしてほしかった。
- ・ゴールが見通せなかった。
- ・どこまで関わっていくべきかわからなかった。
- ・ZOOMのみでのやりとりのため、生徒一人一人とじっくり話せなかったのは残念。
- ・タイミングが合わない（LINEを返す時間など）。
- ・企業訪問の際の準備不足、学生への指導説明が不十分と感じた。電話対応について不慣れすぎであり事柄を理解するのに多くの時間を要す。サポート後の同席が必要であると思う。
- ・昨年度参加時と内容が変わっているが、各依頼時に何をするのがわかりにくかった。また、最初のご依頼時に企業側にいつ頃何をしてほしいかを明示していただくと良かったと思います。
- ・コロナ禍による訪問制限。

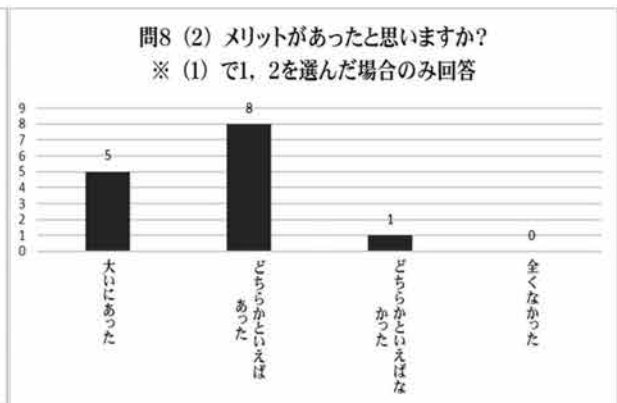
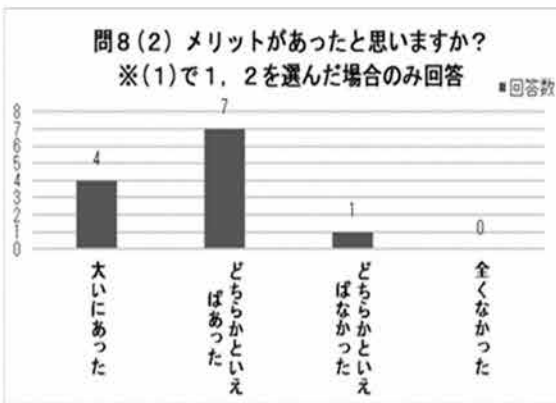
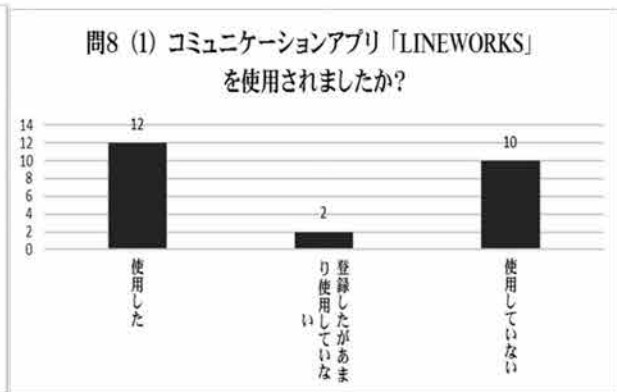
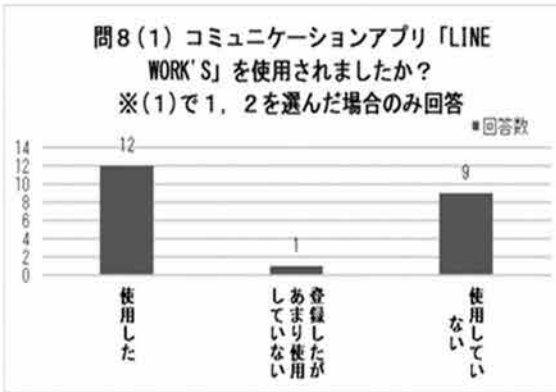
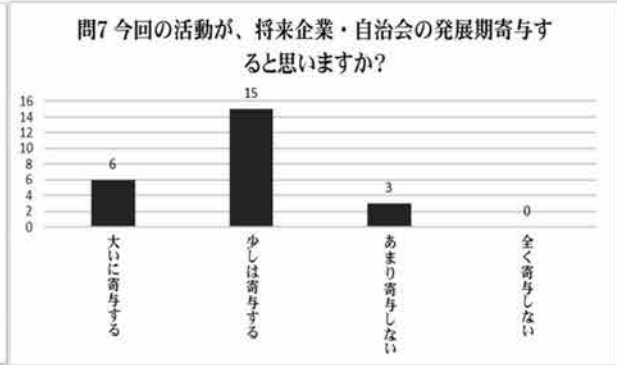
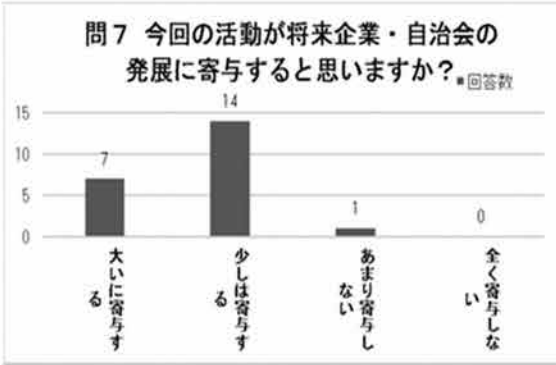
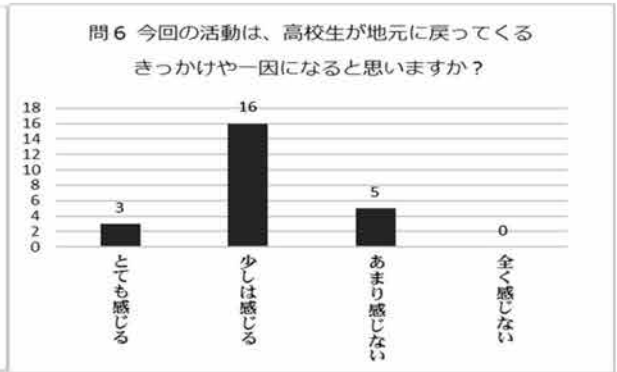
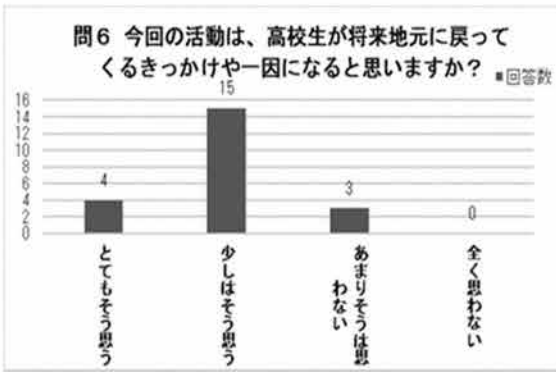
※昨年度と同じく、企業側と学校側のコミュニケーションに問題があることが分かる。企業側への丁寧な説明はもとより活動が活発化していくにしたがって、校内における共通理解や効率的に企業と目線あわせをしていく「方法」や「場」が必要であると考えられる。

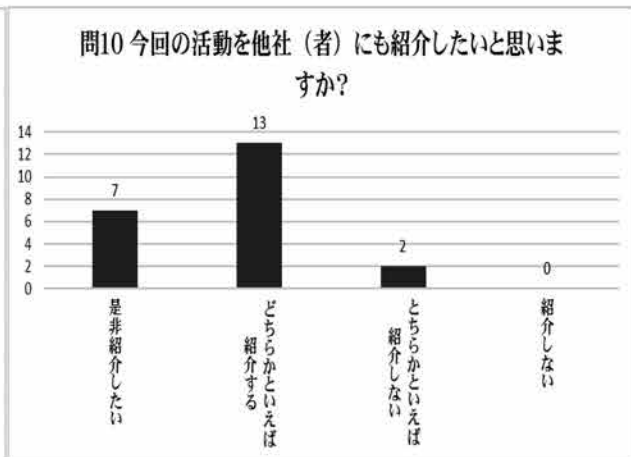
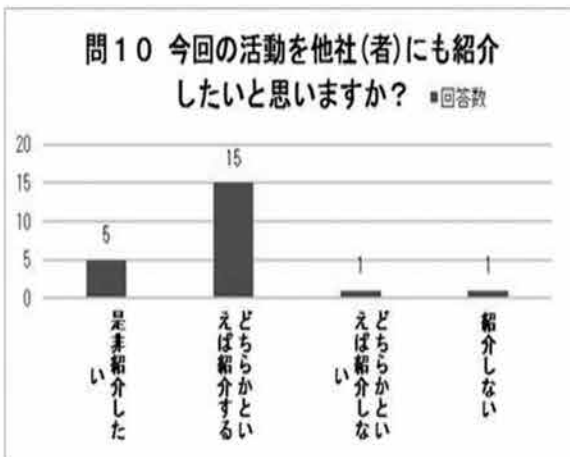
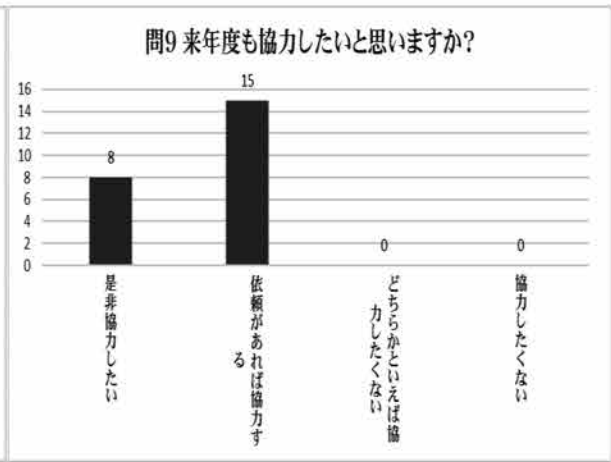
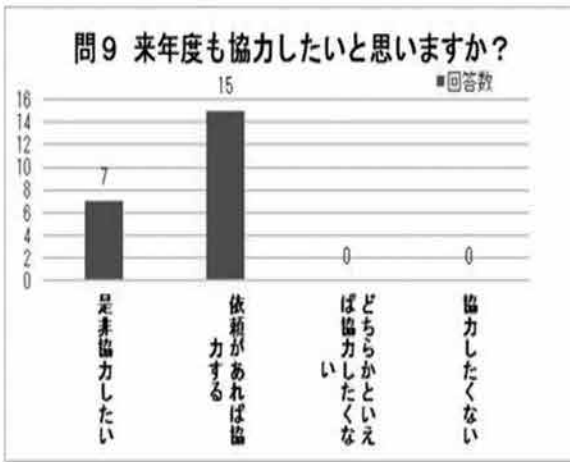
### (R3年度回答)



### (R4年度回答)







# (参考資料3) 魅力化に関する教職員アンケート

## 1. 調査概要

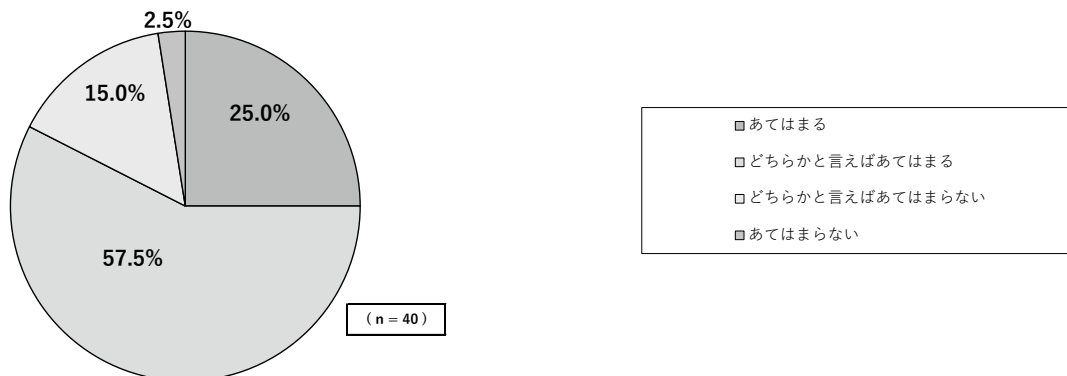
調査期間	令和3年度 第2回：令和4年1月25日（火）～1月31日（月）
調査方法	Google FormによるWEB回答 および 手書き回答
調査対象	松江東高校に勤務する教職員：53名
回答数/回答率	40名/75.5%

## 2. 調査結果

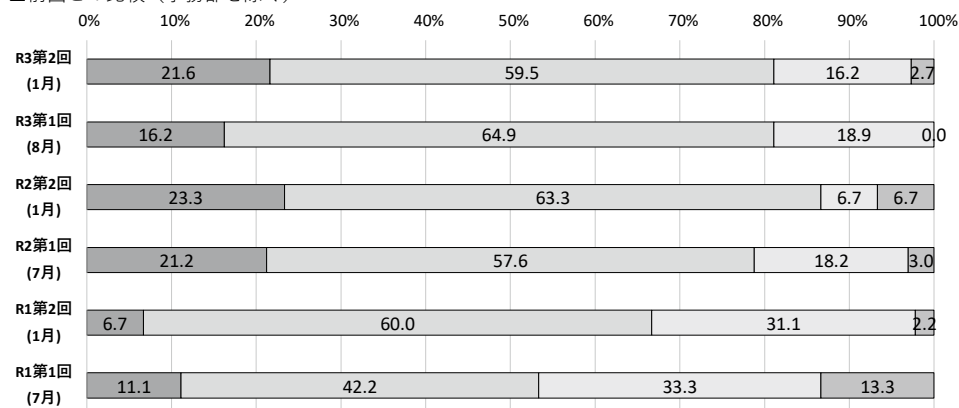
### (1) 高校魅力化への理解度

問1. 平成31年2月に島根県が示した「県立高校魅力化ビジョン」の内容を理解している。

「県立高校魅力化ビジョン」の内容の理解度は82.5%で、前回の80.5%より増加した。

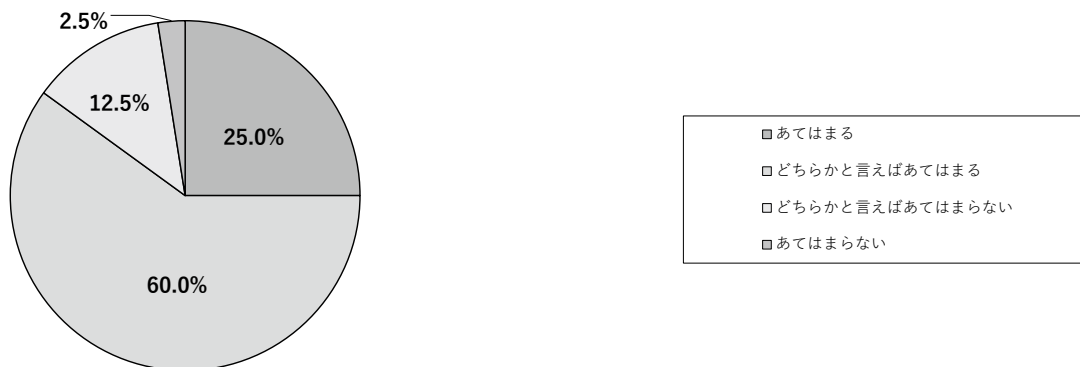


### ■ 前回との比較（事務部を除く）

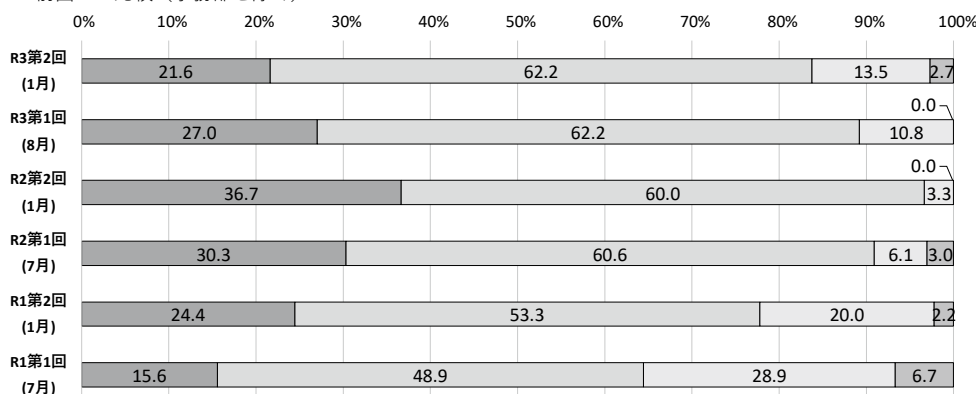


問2. 松江東高校の魅力化・特色化のビジョンを理解している。

松江東高校の魅力化・特色化のビジョンは85.0%が一定程度理解しているが、前回（87.8%）よりは減少した。



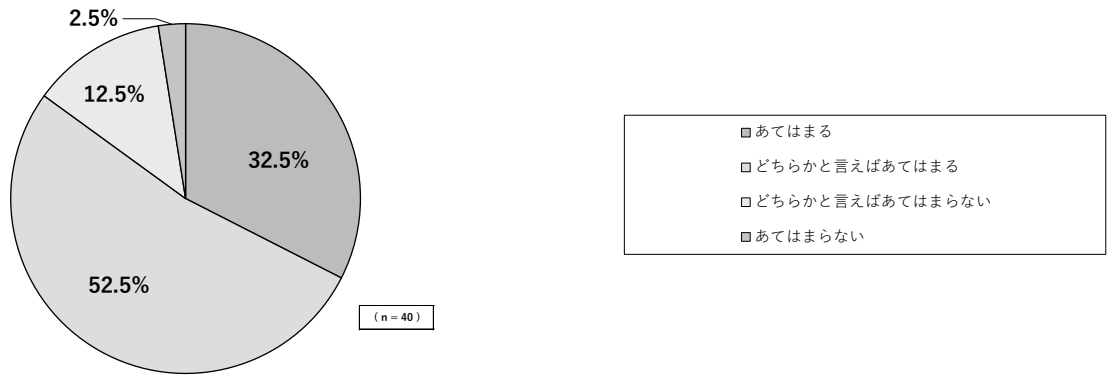
### ■ 前回との比較（事務部を除く）



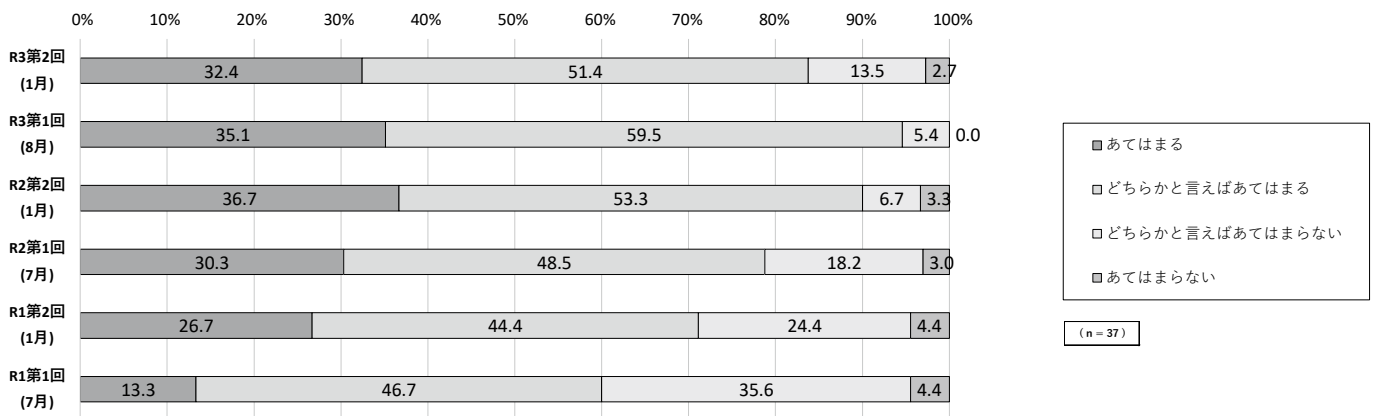


問3. 松江東高校が育成する生徒像として掲げる「地域共創人」の意味を理解している。

「地域共創人」の意味は85.0%が一定程度理解しており、前回（85.4%）とほとんど同じであった。

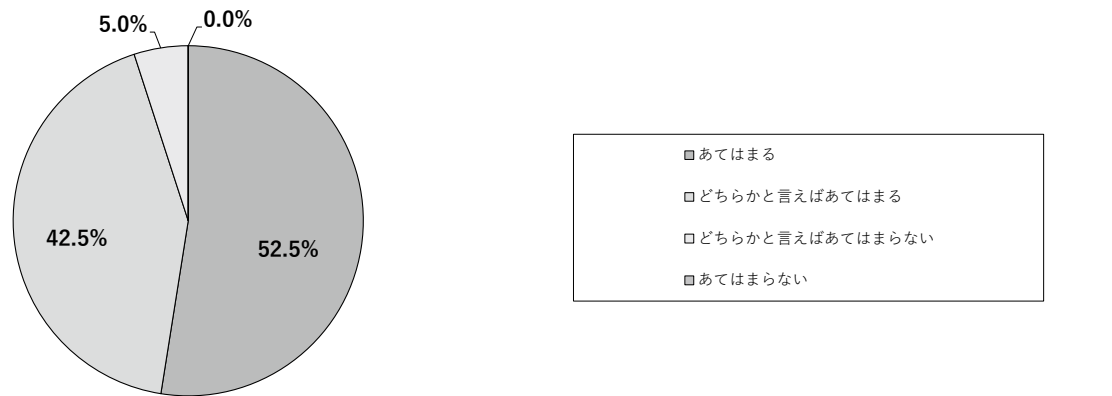


■前回の比較（事務部を除く）

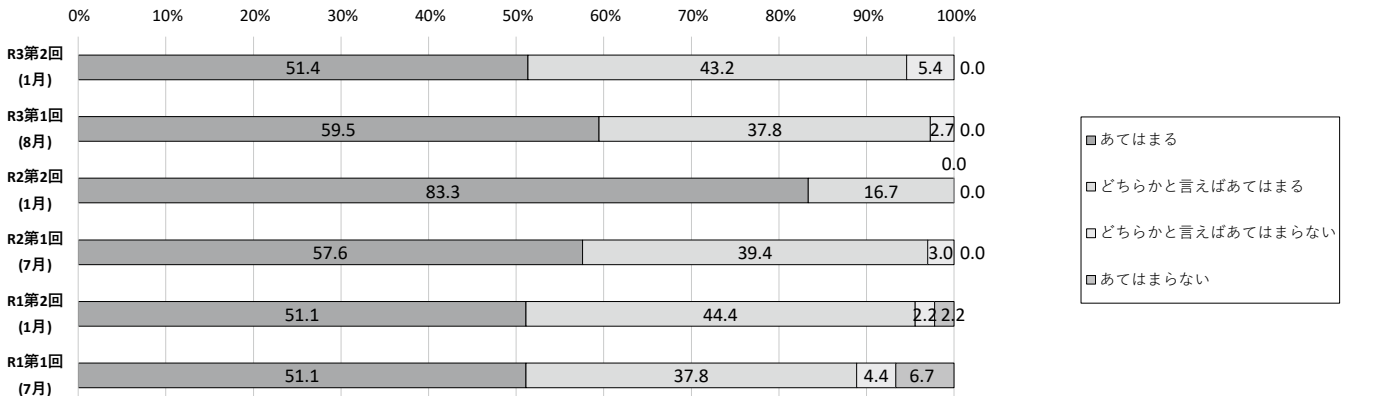


問4. 県内高校の魅力化・特色化の取り組みは教科指導も含まれると思う。

95.0%と高い認識を示したが、前回（100%）よりは少し肯定的回答の割合が減っている。

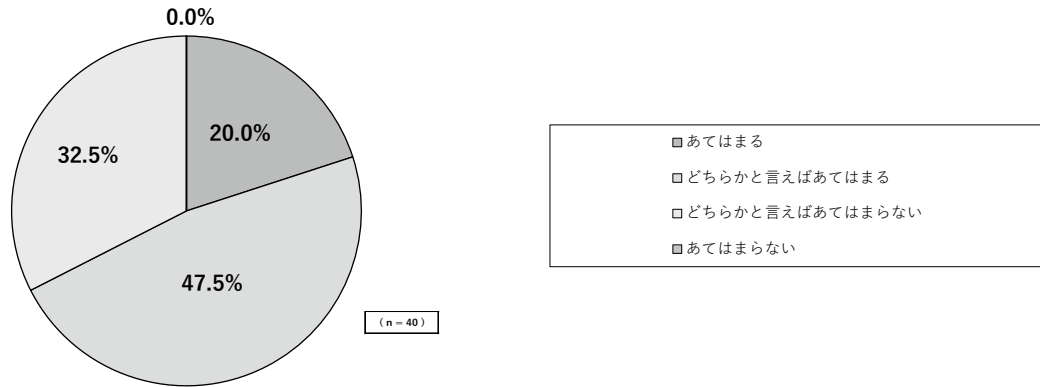


■前回の比較（事務部を除く）

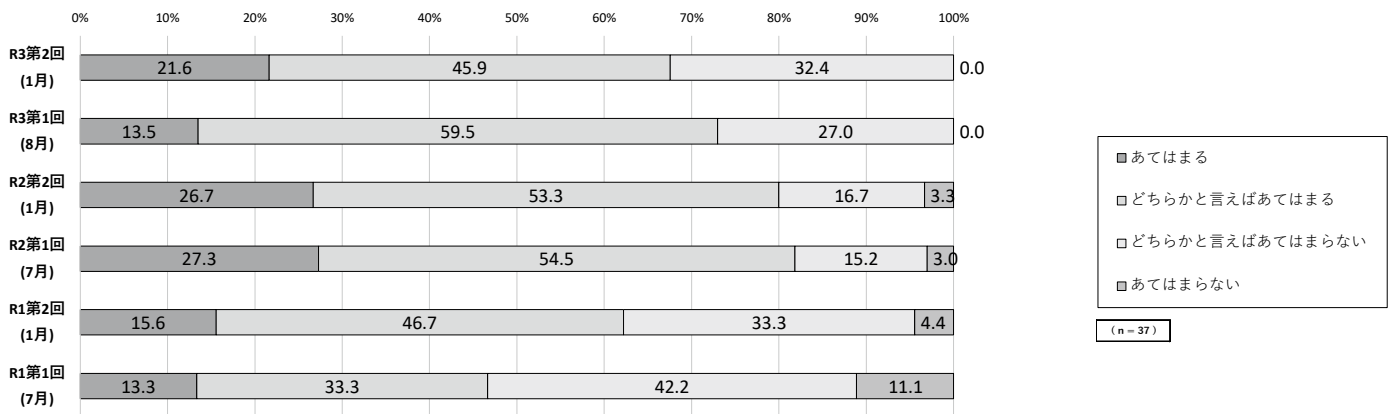


問5. 松江東高校の魅力化ビジョンを意識し、主体的に行動している。

理解度（問2：85%程度）と比べると肯定的な回答の割合は68.5%と低く、前回（73.2%）よりも減少した。

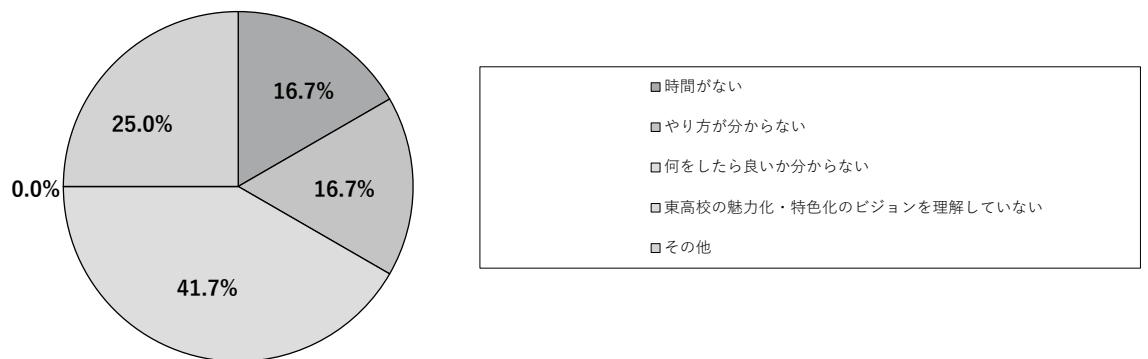


■前回との比較（事務部を除く）

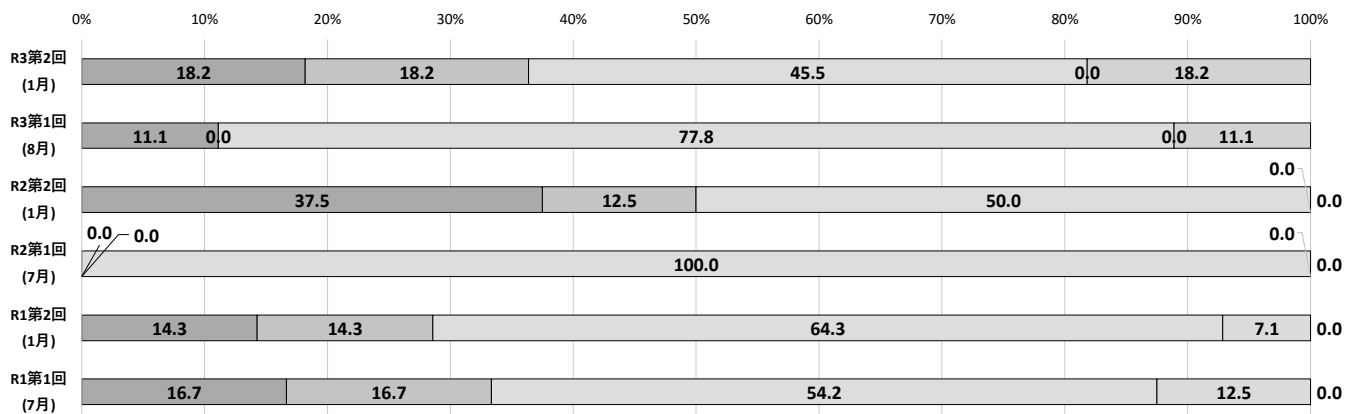


問6. 問5で「どちらかと言えばあてはまらない」または「あてはまらない」と回答した方にお聞きします。行動していない理由は何ですか。

- ・主体的に行動できていない教職員のうち、行動しない理由として「何をしたら良いかわからない」が前回の63.6%に引き続き最も多く、41.7%となった。
- ・「時間がない」という教職員が前回（9.1%）から16.7%と大きく増加した。

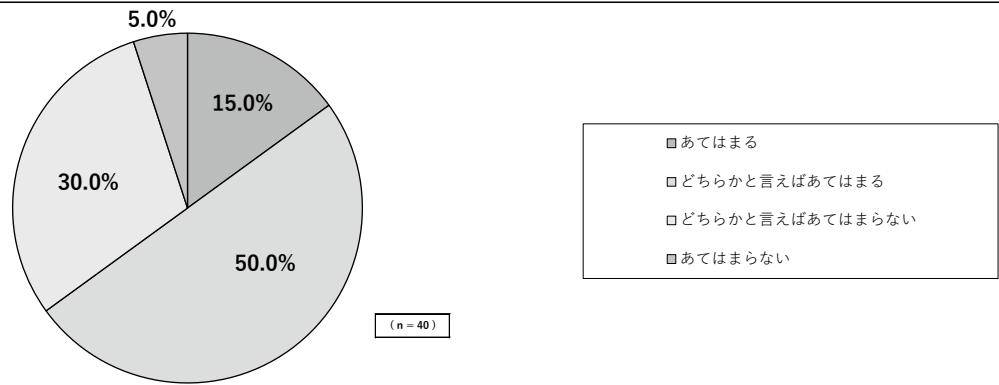


■前回との比較（事務部を除く）

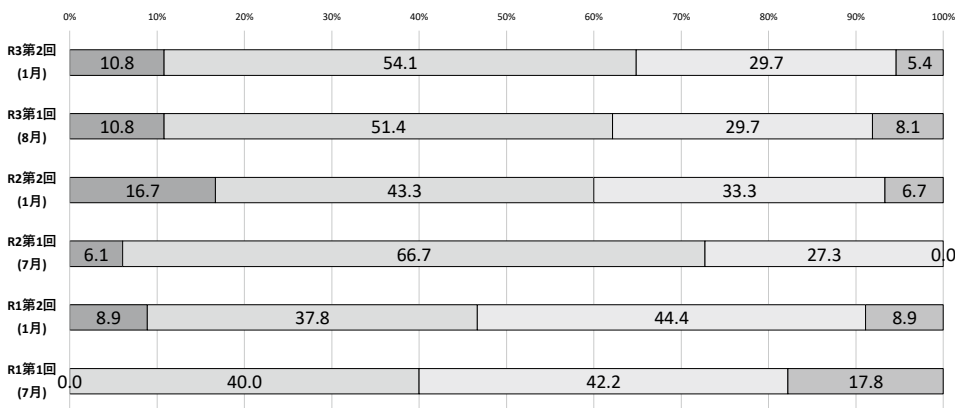


問7. 松江東高校として学校が一体となって魅力化・特色化に取り組んでいると思う。

肯定的な回答が65.0%（教員のみも65.0%）であり、前回と前回（65.8%）とほとんど変化がない。

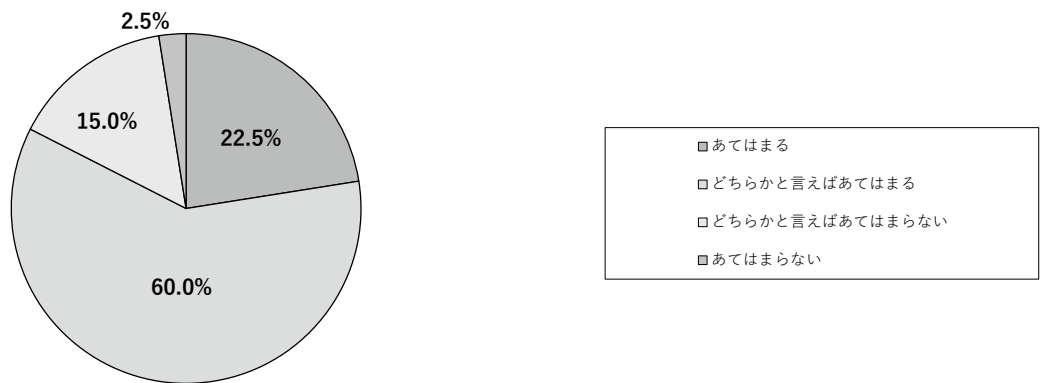


■ 前回との比較（事務部を除く）

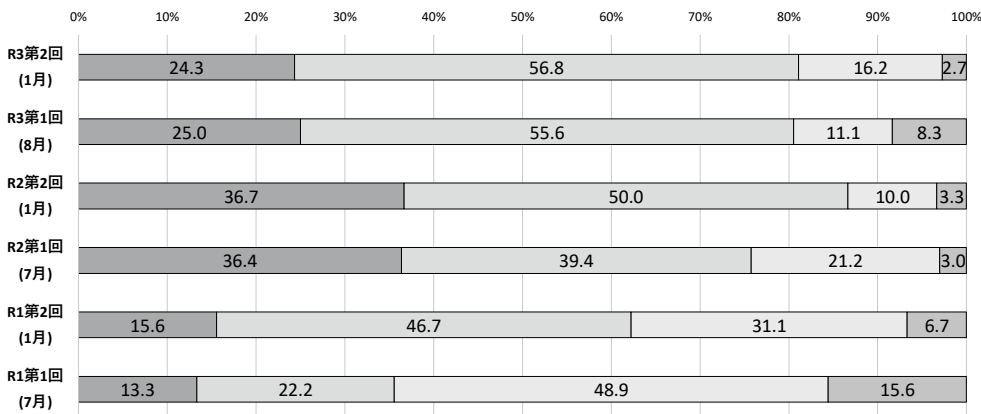


問8. 松江東高校の魅力化・特色化の取り組みの中で、自分が果たすべき役割を理解している。

問7の肯定的な回答65%（教員のみも65%）に対し、82.5%（教員のみは81.1%）とやや高い。

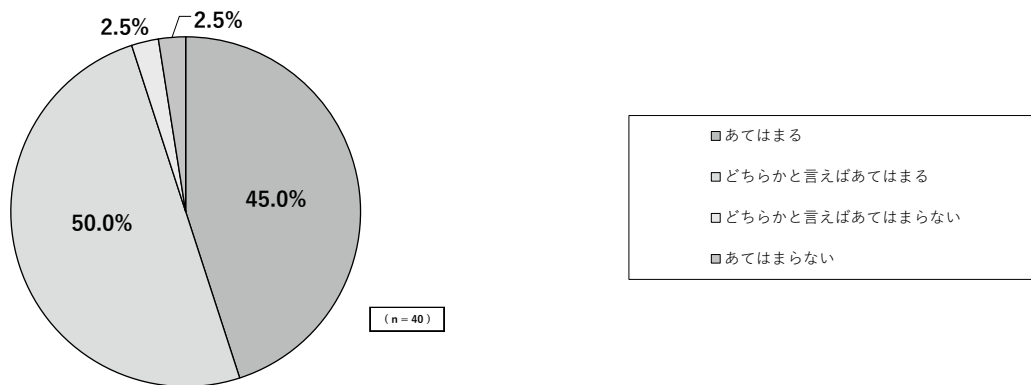


■ 前回との比較（事務部を除く）

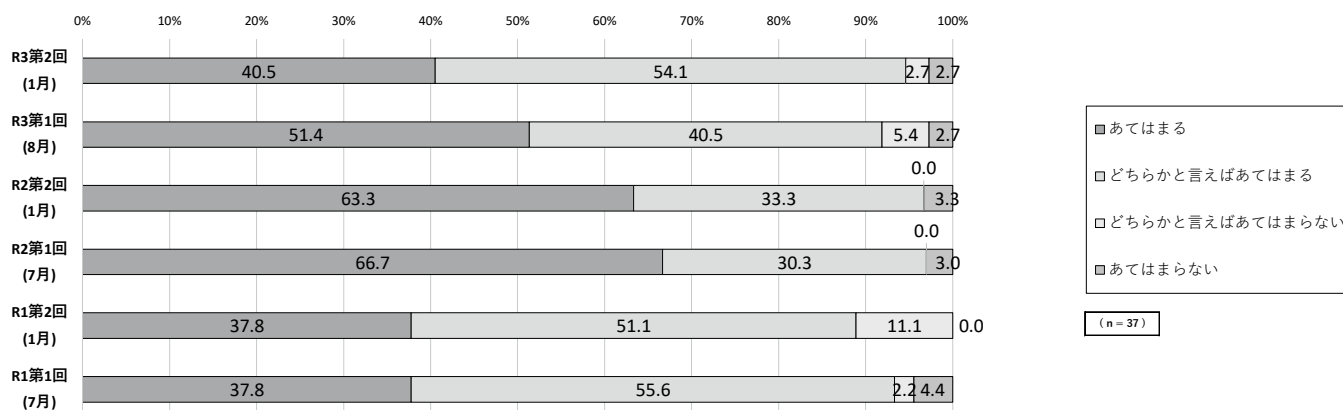


問9. 松江東高校の魅力化・特色化は今後も進めるべきだと思う。

90%以上の肯定的な回答がある。一方で、そのなかでも「あてはまる」の割合が45%（教員のみは40.5%）にとどまっている。

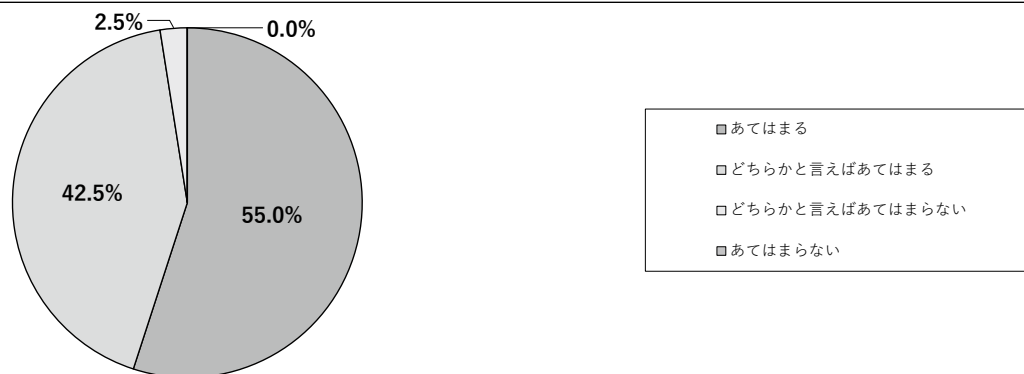


■ 前回との比較（事務部を除く）

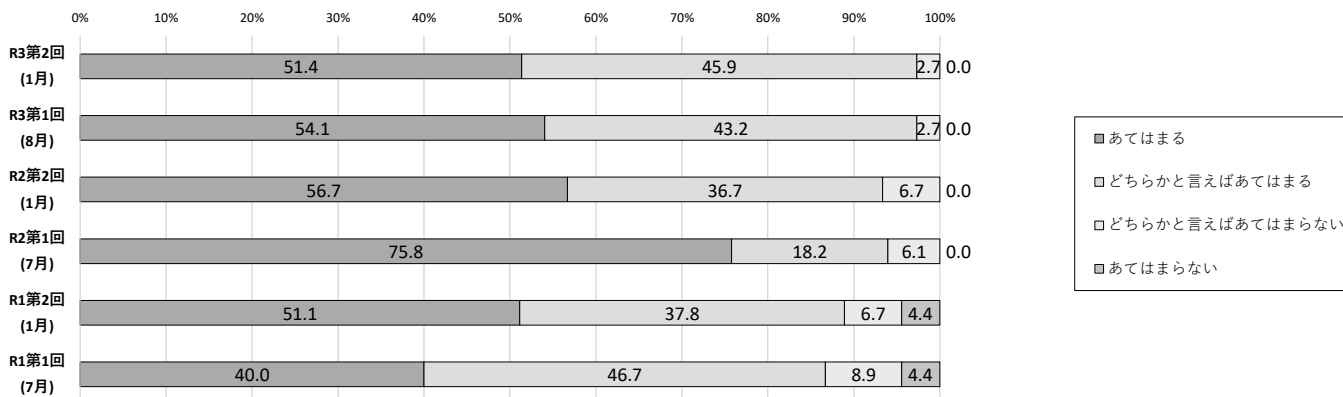


問10. 地域の課題解決につながる能力を生徒が身につけることは大切だと思う。

前回と同様に97.5%と肯定的な意見が多い。生徒の将来にむけて「生きる力」として大切な能力であると認識されていると考える。

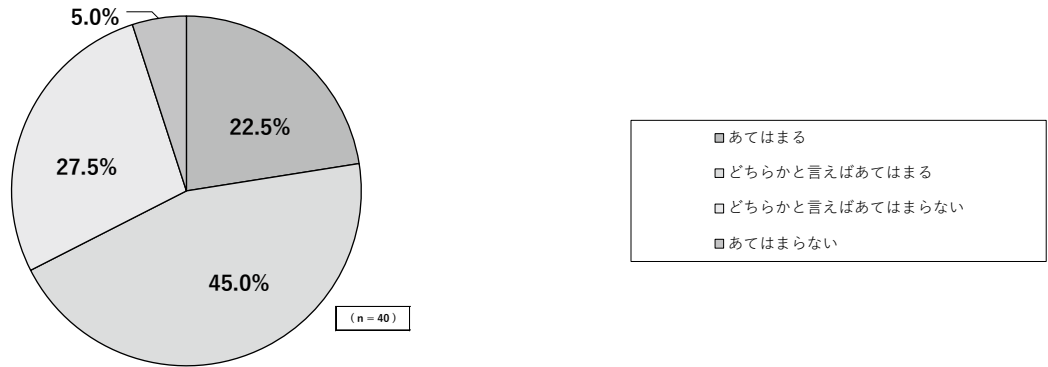


■ 前回との比較（事務部を除く）

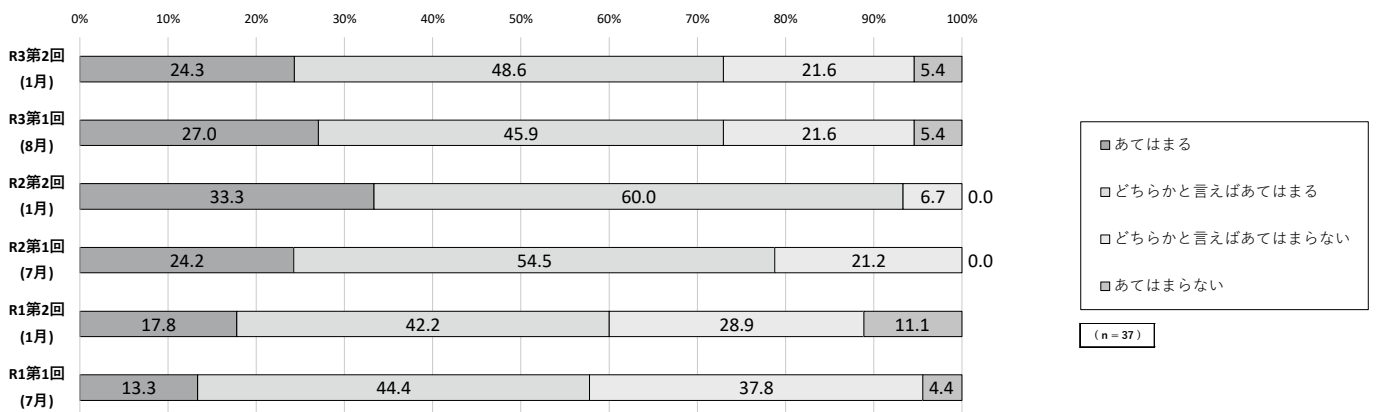


問11. 生徒の探究的な学びを促す機会を提供できるような手法を日々考え続けている。

前回と肯定的な回答はほとんど変化がない。その内訳として「どちらかと言えばあてはまる」が増加しており、意識はあるものの手法の考察や実践へはつなげにくい実態があると考えられる。

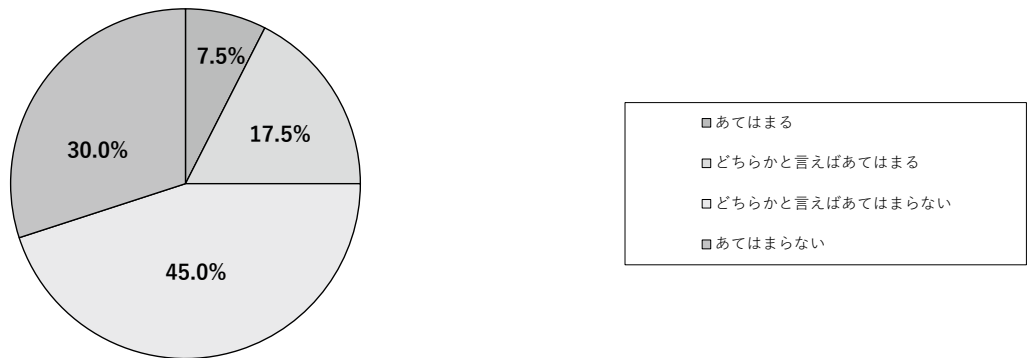


■前回との比較（事務部を除く）

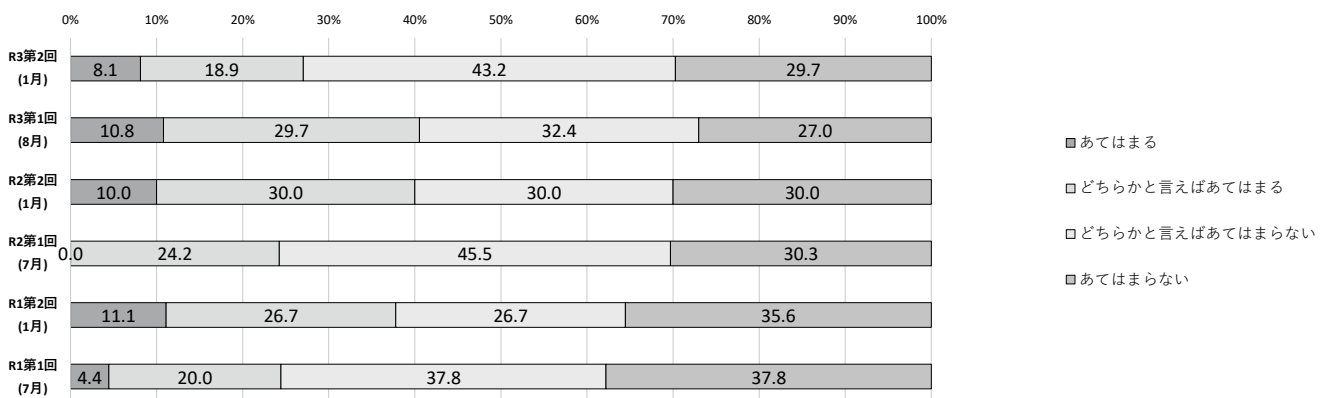


問12. 高校の周辺地域や自分の居住する地域のイベント等に積極的に参加している。

肯定的な回答が25%と1回目よりは減っている。コロナ禍におけるイベントの少なさや、参加する余裕のなさが感じられる。



■前回との比較（事務部を除く）



(参考資料4) 高校魅力化評価システムの結果 (本校のルーブリックにあてはめ分類したもの)

5つの力を構成する要素番号	全校				1年生 (2021入学生)				2年生 (2020入学生)				3年生 (2019入学生)			
	全体割合 (%)	昨年度との差 差 (pt)	地域比との差 差 (pt)	学年割合 (%)	学年割合 (%)	1年次との差 差 (pt)	学年割合 (%)	1年次との差 差 (pt)	学年割合 (%)	1年次との差 差 (pt)	学年割合 (%)	2年次との差 差 (pt)	学年割合 (%)	1年→3年推移	回答上昇率割合 (%)	
																回答率 (%)
多文化理解力 ①②⑥	①	89.3%	2.68	5.97	95.1%	6.14	0.76	92.1%	3.20	27.7%	82.6%	-10.24	12.1%			
	②	69.8%	-2.33	3.37	75.4%	4.56	-6.41	69.1%	-1.74	27.7%	68.2%	-13.03	19.7%			
	③	72.1%	0.68	0.25	67.2%	-1.63	-4.95	70.7%	1.84	18.8%	76.5%	1.93	25.8%			
	④	67.2%	-0.93	-1.97	63.9%	-4.91	-13.34	63.9%	-4.97	18.8%	73.5%	0.56	25.8%			
	⑤	70.6%	-2.05	-2.06	72.1%	6.30	-1.16	66.0%	0.14	20.4%	76.5%	-0.83	33.3%			
	⑥	46.4%	1.61	-2.95	50.8%	9.61	-6.57	39.3%	-1.94	22.0%	54.5%	11.45	12.9%			
	⑦	89.1%	0.41	0.58	91.8%	3.86	0.33	90.6%	2.64	26.7%	85.6%	-4.45	25.8%			
	⑧	59.9%	5.14	8.45	54.1%	8.37	-2.72	58.6%	12.91	38.2%	64.4%	-1.90	19.7%			
	⑨	93.8%	1.93	0.88	96.7%	6.77	5.81	91.6%	1.67	18.3%	95.5%	2.64	23.5%			
	⑩	89.8%	0.86	0.96	95.1%	4.13	8.15	90.6%	-0.38	13.1%	86.4%	-2.59	22.0%			
主体的学習意欲 ③④	①	72.4%	0.78	2.42	73.8%	2.92	-9.75	72.8%	1.92	22.5%	71.2%	2.15	20.0%			
	②	64.6%	-1.36	1.63	57.4%	0.59	-10.80	60.2%	3.43	29.8%	74.2%	4.63	25.0%			
	③	41.1%	2.58	5.99	32.8%	4.14	-4.14	40.8%	12.19	36.6%	45.5%	0.15	27.3%			
	④	76.8%	-0.97	3.39	77.0%	5.69	-0.22	74.9%	3.51	23.6%	79.5%	1.09	31.8%			
	⑤	55.2%	-2.05	-6.24	52.5%	2.71	-11.75	49.2%	-0.53	24.6%	65.2%	2.72	27.3%			
	⑥	62.5%	3.07	-0.64	65.6%	14.82	-0.90	58.6%	7.88	23.0%	66.7%	4.24	27.3%			
	⑦	72.9%	-1.04	-6.96	72.1%	-1.24	-6.28	71.2%	-0.77	23.0%	75.8%	-1.04	25.8%			
	⑧	65.1%	-8.69	-3.09	72.1%	-0.73	-6.28	58.1%	-14.75	14.7%	72.0%	-2.62	26.5%			
	⑨	80.7%	1.43	2.62	88.5%	4.10	4.43	79.1%	-5.36	18.3%	79.5%	2.75	22.0%			
	⑩	52.3%	-1.08	-3.52	62.3%	20.59	-4.18	37.7%	-4.01	26.2%	68.9%	12.03	35.6%			
探究的学習力 ④⑤	①	71.4%	14.43	18.32	49.2%	15.51	0.32	77.0%	43.30	33.5%	73.5%	-6.07	20.5%			
	②	43.0%	2.57	2.79	47.5%	11.36	-2.46	43.5%	7.27	33.5%	40.2%	5.90	31.1%			
	③	75.8%	-1.01	-3.83	75.4%	1.04	-7.54	71.2%	-3.17	20.9%	82.6%	2.47	20.5%			
	④	78.6%	2.52	2.18	85.2%	11.88	11.38	73.3%	-0.07	22.5%	83.3%	4.33	31.1%			
	⑤	56.8%	-5.67	-6.42	60.7%	3.87	-0.71	51.8%	-4.95	19.9%	62.1%	-4.18	23.5%			
	⑥	66.9%	-0.35	-4.58	68.9%	4.53	-7.85	62.8%	-1.49	17.8%	72.0%	2.36	27.3%			
	⑦	83.3%	7.04	6.62	86.9%	8.49	3.93	82.7%	4.33	29.8%	82.6%	-3.61	20.5%			
	⑧	71.6%	0.16	0.90	72.1%	4.29	-0.03	70.2%	2.32	23.0%	73.5%	-1.65	27.3%			
	⑨	43.5%	3.76	-0.03	49.2%	15.51	-3.09	38.2%	4.55	23.6%	48.5%	4.84	32.6%			
	⑩	70.1%	0.77	4.51	78.7%	14.87	5.39	63.9%	0.06	25.1%	75.0%	6.49	31.1%			
地域共創力 (地域創造力) ⑥⑦	①	60.7%	-0.93	-1.19	67.2%	4.40	-2.67	53.9%	-8.89	24.6%	67.4%	7.20	26.5%			
	②	37.5%	0.10	-3.14	31.1%	2.50	-	33.0%	4.34	26.7%	47.0%	4.98	26.5%			
	③	65.9%	2.95	3.41	67.2%	-0.12	-6.65	67.0%	-0.32	30.9%	63.6%	5.63	26.5%			
	④	70.6%	4.46	4.71	63.9%	4.14	-13.91	73.3%	13.50	38.7%	69.7%	-7.10	17.4%			
	⑤	62.2%	-5.04	-3.52	54.1%	-14.24	-18.63	60.7%	-7.61	18.3%	68.2%	0.23	25.8%			
	⑥	49.2%	-3.20	-3.37	47.5%	-6.73	-10.41	47.1%	-7.15	16.2%	53.0%	-2.22	25.8%			
	⑦	66.1%	14.73	14.88	55.7%	21.06	-0.51	70.2%	35.48	9.7%	65.2%	-2.80	22.7%			
	⑧	75.5%	-0.77	-3.72	83.6%	6.22	4.63	69.1%	-8.28	12.0%	81.1%	5.37	26.5%			
	⑨	59.4%	2.61	-2.49	67.2%	14.45	-0.97	52.4%	-0.41	23.6%	65.9%	7.90	29.5%			
	⑩	69.8%	2.85	-1.13	75.4%	11.09	4.39	63.9%	-0.45	23.0%	75.8%	4.49	31.8%			
社会的自立力 (社会形成力) ①⑧	①	51.8%	-0.93	-5.13	67.2%	21.99	1.87	40.8%	-4.39	23.6%	60.6%	3.15	27.3%			
	②	61.7%	4.29	5.45	55.7%	14.03	-10.17	63.4%	21.64	42.9%	62.1%	-4.73	26.5%			
	③	72.1%	2.19	1.73	77.0%	12.23	4.89	69.6%	4.81	28.8%	73.5%	1.66	26.5%			
	④	27.6%	2.90	-4.30	16.4%	-3.71	-26.79	25.7%	5.55	30.9%	35.6%	12.40	32.6%			
	⑤	28.9%	6.87	-0.38	26.2%	8.64	-9.57	24.6%	7.02	28.8%	36.4%	15.92	33.3%			
	⑥	47.7%	0.24	-2.11	52.5%	10.75	-	38.7%	-2.97	26.2%	58.3%	9.16	33.3%			
	⑦	41.4%	3.18	-5.54	39.3%	10.70	-11.22	34.0%	5.39	27.7%	53.0%	16.57	39.4%			
	⑧	30.2%	-9.19	-12.06	27.9%	-6.30	-20.43	22.5%	-11.66	17.3%	42.4%	3.20	35.6%			
	⑨	52.3%	0.09	-0.81	47.5%	0.81	-7.00	46.6%	-0.14	20.9%	62.9%	12.05	37.1%			
	⑩	69.5%	1.42	1.05	67.2%	0.88	-0.40	69.1%	2.78	18.3%	71.2%	0.49	25.8%			
⑪	67.4%	-2.17	-5.28	67.2%	1.38	-7.22	61.8%	-4.05	24.1%	75.8%	2.83	29.5%				
⑫	45.3%	0.74	-4.30	41.0%	6.81	-	41.4%	7.19	33.0%	53.0%	4.41	31.1%				





# 島根県立松江東高等学校

〒690-0823 島根県松江市西川津町510番地

TEL.0852-27-3700 FAX.0852-27-3703

URL <https://www.matsuehigashi.ed.jp/>

